

# ASUS

May 2003

[ The Art of Technology ]

# WORLD

アススワールド 日本語版 創刊号

www.asus.co.jp

特集 PC自作まるわかり!

## 高橋敏也のラクラク 自作入門塾

特別企画 最新ロードマップをチェック!

## ASUS テクニカルガイド

ASUS 製品最新カタログ

Pundit

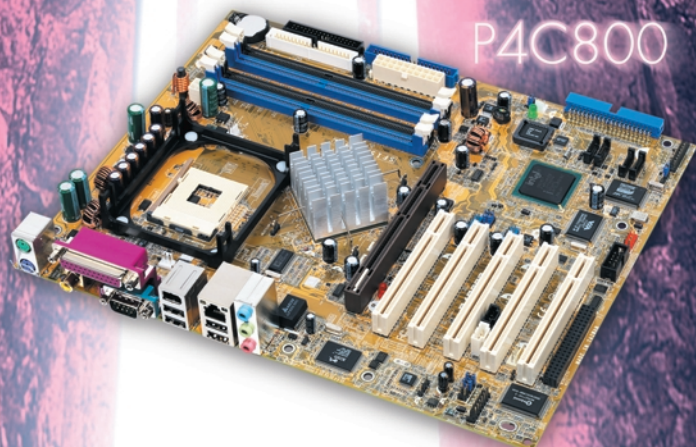
P4C800

P4P800 シリーズ

V9560 シリーズ

SCB-2408-D

S1N & M2N



日本の皆様、日頃は当社商品をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。ASUS東京事務所所長のアンドリューと申します。

お蔭様で、ASUS商品が日本での販売を開始してから早10年になります。販売を開始したころはDOS/Vパーツ黎明期にあたり、一部のコアなユーザーのみがPCを自作するという環境でした。PCを自作するという意識が低かった日本市場に、あえてASUSは世界初となるリテール用Intel 486マザーボードや、デュアルPentium Proに対応したサーバーボードなど、細かい設定が容易にできる商品が続々と投入しました。これは、パーツ同士の相性問題の少なさや、正規性能以上の力を引き出せるオーバークロッキングなど自作PC特有の楽しみが、ASUS商品では安心して使えるということをも日本の皆さんに認識してもらいたかったからです。

その結果、徐々にユーザーの皆様にも弊社の商品開発ポリシーを理解していただき、日本市場ではデファクトスタンダード的なマザーボードメーカーになることができました。弊社ではマザーボードの開発技術、品質管理を生かして、ビデオカード、光学ドライブ、ノートPC、サーバーシステム、無線LANの開発・販売を開始し、さらにはPDAや携帯電話など、PC以外の家電製品にまでその分野を広げています。

とくに品質管理分野では他社に先駆けた社内環境を用意し、熱対策、電磁波防止試験、高周波電波干渉テスト、商品の小型・薄型化を実現する各種集積回路の設計など、日本メーカーと相違ない能力を持っていると断言できます。

1万5000人を超える社員全員がこれら開発思想や品質管理の意識を持ち、9カテゴリーの製品を12チーム900人の技術者で開発を行っているASUSは、アジアIT産業ランキングのトップに評

価され、Info Tech 100ランキングでは連続4年間入選しました。また、弊社は昨年の世界企業ランクで23位に登録され、日本だけでなく世界に認められる企業として活動しております。

皆さんの見えないところでも、世界の各有名PCメーカーにASUS製品は採用されており、現在世界中のPC販売台数のうち7台に1台はASUS製マザーボードが使われています。それらの需要に応えるべく弊社工場は大量生産を可能にするための投資を重ねていますが、もちろん、最新技術へのチャレンジや、ユーザー皆様の意見を即座に取り入れる姿勢は今でも変わりません。

今後もASUSは「顧客に価値のある製品」、「パフォーマンスに優れた製品」を存分に意識しつつ、自作PCを支持していただけるユーザーの良きパートナーとして歩み続けます。

今回の「アスースワールド日本語版」創刊号の発行にあわせ、このような形で皆様にご挨拶できたことを大変うれしく思います。これからも日本の社会と、皆様の家庭生活にお役立ていただけるような製品を提供できるよう日々精進することを誓い、結びの言葉とさせていただきます。今後ともよろしく願いいたします。

## アスースワールド日本語版 発行にさいして

ASUSTeK Computer Inc. 日本営業統括担当  
ASUSTeK Computer 日本東京事務所所長

崔國斌 アンドリュー ツエイ Andrew Tsui





高橋敏也の

特集

特別企画

06

# ラクラク自作入門塾

23

# ASUS テクニカルガイド

## 31 ASUS 製品カタログ

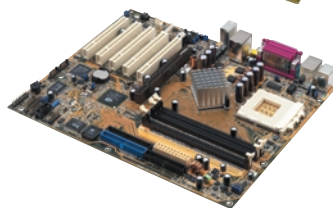
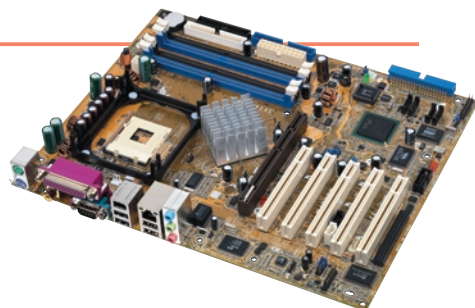
### >>> ベアボーン

- 32 **Pundit** (ブックタイプ)
- 32 **Degatto** (ノートPCタイプ)
- 33 **Terminator P4 533A** (ミニタワー)
- 33 **Terminator K7 DDR** (ミニタワー)



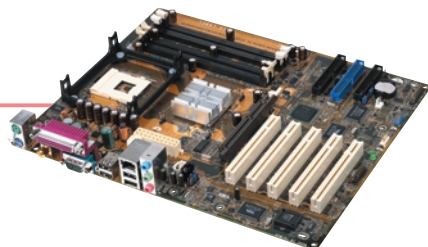
### >>> マザーボード

- 34 **P4C800 Deluxe** (Intel 875P)
- 34 **P4P800 Deluxe/P4P800** (Springdale-PE)
- 35 **P4P800-V** (Springdale-G)
- 35 **P4P8X** (Springdale-P)
- 36 **P4G8X Deluxe/P4G8X** (Intel E7205)
- 36 **P4SDX** (SiS655)
- 37 **P4PE Deluxe/P4PE** (Intel 845PE)
- 37 **P4GE-V** (Intel 845GE)
- 38 **PP-DLW** (Intel E7505)
- 38 **PU-DLS** (Intel E7501)
- 39 **A7N8X Deluxe/A7N8X** (nForce2-ST)
- 39 **A7S333** (SiS745)
- 40 **P4P800-VM** (Springdale-G)
- 40 **P4S533-MX** (SiS651)
- 41 **A7S266-VM/U2** (SiS740)
- 41 **A7N266-VM** (nForce 220-D)



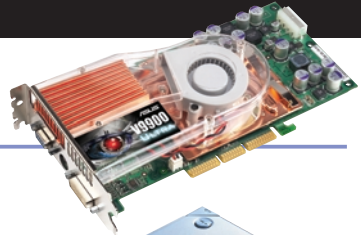
### >>> マザーボード (X-Series)

- 42 **P4XP-X** (Intel 845D)
- 42 **P4S8X-X** (SiS648)
- 42 **P4S533-X** (SiS645 DX)
- 42 **A7V8X-X** (Apollo KT400)



### >>> ビデオカード

- 44 **V9900** シリーズ ( GeForce FX 5800 )
- 44 **V9560** シリーズ ( GeForce FX 5600 )
- 45 **V9520** シリーズ ( GeForce FX 5200 )
- 45 **V9280** シリーズ ( GeForce4 Ti 4 200-8X )
- 45 **V9180** シリーズ ( GeForce4 MX440-8X )



### >>> 光学ドライブ

- 48 **SCB-2408-D** (ポータブルタイプ)
- 48 **SCB-1608-D** (ポータブルタイプ)
- 49 **CRW-5224A-U** (外付け 据え置き型 CD-R/RW)
- 49 **CRW-5224A** (ATAPI内蔵型 CD-R/RW)
- 50 **DRW-0402P** (ATAPI内蔵型 DVD-R/RW)
- 50 **DVD-E616** (ATAPI内蔵型 DVD-ROM)
- 50 **CD-S520** (ATAPI内蔵型 CD-ROM)



### >>> ノートPC

- 51 **S1N** (Centrino モバイルテクノロジー搭載)
- 51 **M2N** (Centrino モバイルテクノロジー搭載)



### >>> 無線 LAN

- 52 **WL-100G** (無線LANカード)
- 52 **WL-300G** (アクセスポイント)
- 52 **WL-500G** (ブロードバンドルーター)
- 53 **WL-200** (無線LANカード)
- 53 **WL-600** (SOHOゲートウェイ)
- 53 **WL-100** (無線LANカード)



### >>> PDA

- 54 **A600** (ポケットPC)
- 54 **A620** (ポケットPC)



## 読みもの

- 43 ASUS マザーボードの独自機能とは?
- 46 正しいビデオカードの選び方
- 55 ASUSTeK Computer 東京事務所から
- 56 ASUS 製品ユーザーサポート体制
- 59 ASUS 製品取り扱いショップ一覧



特集

高橋俊也の

ラック  
ラック

# 自作入門塾



好みのパーツを買いそろえ、ドライバーを片手に、マニュアルを見ながら作業開始。

慣れた人なら1時間、初心者でも2時間ほどでPCが完成する。これがいわゆる「自作マシン」というヤツだ。

PCを組み立てるからといって、決して特別な知識や能力が必要とされる訳ではない。ほんの少しの決まりごとと手順さえ知っていれば。誰でも簡単にPCを組み立てられるのである。

また、その決まりごとや手順は、ほとんど本書が網羅している。もう迷う必要はない。本書を見たら、いや、見ながらでもいいから自作マシンのパーツを買いに行こう。

マシンの自作、自作マシンの組み立ては、あなたをきっと幸せにしてくれるだろうから。



高橋敏也

テクニカルライター兼コピーライター兼SF作家。コピーライターやSF作家の姿はなりを潜め、最近はおっぱらDOSV magazine、DOSV POWER REPORTなどで連載を持つ、テクニカルライター兼PCパーツセンター店長兼改造バカとして活躍中。

パソコンを自分で作る、というとなんだかものすごく難しいことのように感じるかもしれない。しかし、実はとっても簡単で、趣味としても楽しいものなのだ。

# 自作で幸せになろう

## 自作をするとPCに強くなれる!

PCを自作するメリットで、まず挙げておきたいのが「PCに強くなる」ということだ。自作マシンではパーツを自ら(誰かに助けてもらうのも可)選んで購入し、それを自分の手で組み立てる。この課程でもう、あなたはPCのハードウェア構成を理解してしまうのである。すでに完成しているPCは、ユーザーにとってある意味ブラックボックスである。CPUだ、ハードディスク(HDD)だといっても、それは写真上のものでしかない。しかし自作マシンではそのパーツを買って、手に取り、組み立てるのだ。

そしてPCに強くなれば、あとで紹介するアップグレードも簡単に行なえるようになるし、トラブルにも対応できるようになる。例えばPCを1階から2階へ運んだとき強いショックを与えてしまい、拡張カードが抜けかけたとする。そんなときハードウェアの知識があれば、自分で内部を点検して直せる可能性もあるのだ。

PCはハードウェアの知識がなくても使えるツールだが、ハードウェアに関して知識があっても絶対に損はない。自作マシンを組み立てればPCの仕組み、ハードウェアの知識を楽しみながら身につけられるのである。

## 作る楽しさ、オリジナルの喜び!

プラモデル、ラジコンの組み立てやクルマが好きな人は、絶対にPCの自作が気に入るはずだ。あるいはその昔、ラジオ作成に燃えたことがあるなら、自作マシンに手を出さないのはもったいないと言ってもいい。自作マシンの組み立て作業は、基本的にパーツを組み合わせて行くものだ。従って比較的簡単な作業なのだが、できあがるのは「PC」なのである。技術の最先端に行く大企業が製造販売するPCを、自分で自宅で組み立てられるのだ。これを喜びとわずして、なんと表現すればいいだろう。

さらに組み上がった自作マシンは、世界にたった1台、あなただけのオリジナルPCである。例えば2人のユーザーが同じ自作パーツを買って同じような参考文献を見ながら

組み立てても、完成したPCには微妙な違いが出る。作るという課程を楽しみ、自分だけのオリジナル性に喜びを感じるPC。それが自作マシンなのである。

## 自作マシンはムダがない!

自作マシン用のパーツは、自分で選んで購入する。なお、パーツの種類は価格から性能まで、それこそ星の数ほど存在する。その中から「自分に必要なもの、欲しいもの」を選べるのが自作マシンのメリットである。もうメーカー製PCのカタログを見ながら、「この機能、ソフトはいらないから、もう少し安くならないかな……」と悩む必要はないのだ。

さらにパーツを自分で選ぶということは、好きなスペックでマシンを構築できるということだ。グラフィック処理を中心としたマシンに仕上げたければ、高速CPUと大量のメモリに予算をつぎ込めばいいし、テレビ録画をしたいなら、HDDを1TB(テラバイト)搭載したってかまわないのだ。

## 自作マシンはアップグレードし放題!

PCは使い込めば使い込むほど、その便利さが実感できるツールだ。最初はシンプルでいいと思っていた機能も、操作に慣れてくると「あれもしたい、これもしたい」が始まる。さらに活用度がアップすると、HDDやメモリの不足、CPUの処理パワー不足に直面することもあるだろう。そんな時、自作マシン以前の常識は「PCをまるごと買い換え」だった。ところが自作マシンの場合はアップグレードが基本。パーツを交換したり、HDDやメモリを必要に応じて追加するのである。

そもそも自作マシンはパーツを自ら選び、自ら組み立てたPCである。どういったパーツが使われ、どのような構造になっているかは、ユーザー自身が一番知っているのだ。そうするとアップグレードなんぞまさに朝飯前。自分だけのマシンだから、自分の手で使いやすいようにアップグレードする、できる。これこそ自作最大のメリットといえるかもしれない。

PCの自作にどんなパーツが必要なのか、それが分かればPCの仕組みの8割がたは理解できたようなもの。ここでは、PC自作に必要なパーツを紹介しよう。

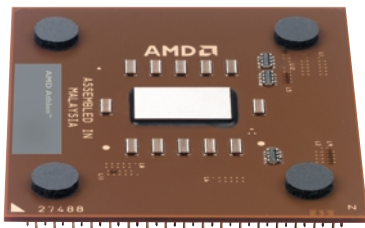
## 自作パーツ入門

CPU



### Pentium 4/3GHz (インテル)

1個のCPUが、内部的には2個あるかのように効率良く処理を行なう「Hyper-Threading」テクノロジーに対応したPentium 4。動作電圧は1.55V、2次キャッシュは512KBである。この2次キャッシュを少なくして性能を抑える代わりに価格を安くしたCeleronというバリューCPUもある。ともにmPGA478というCPUソケットに装着して使用し、ほとんどがCPUクーラーの付属するパッケージで販売されている。2.40B～2.53GHzあたりのクロックがコストパフォーマンスが高い。



### Athlon XP/3000+ (日本AMD)

自作マシンの世界ではPentium 4のライバルとなるCPU。Socket Aと呼ばれるCPUソケットに装着して使用する。CPUクーラーの付属したメーカー純正パッケージと、CPU単体で販売されるバルク品がある。最後の数字はモデルナンバーと呼ばれるもので、Athlon XPの性能表示を分かりやすくしたものだ。ちなみに3000+の場合、実際の動作クロックは2167MHzなのだが「Pentium 4なら3000MHz相当」というような意味ととらえてもかまわない。

メモリ



### DDR400 256MB ×2 (KINGMAX)

メモリの規格には、SDR SDRAM, DDR SDRAM, Direct RDRAM などがあるが、現在の主流はDDR SDRAMである。DDR SDRAMはクロックグレードがあつて、数字が大きいほど高性能になる。Intel 875Pを搭載したP4C800のように、今後はデュアルチャネルDDR400をサポートしたマザーボードが主流になるため、同じメモリを2枚セットで買うのが望ましい。デュアルチャネルは簡単にいってしまうと、メモリのアクセスを並行処理して高速処理を行なう(難しくいうと帯域幅を2倍にする)というものだ。メモリに高速アクセスを行なうことで、PCの処理全体を高速化するのである。

HDD

### WD Caviar WD800AB 80GB (WesternDigital)

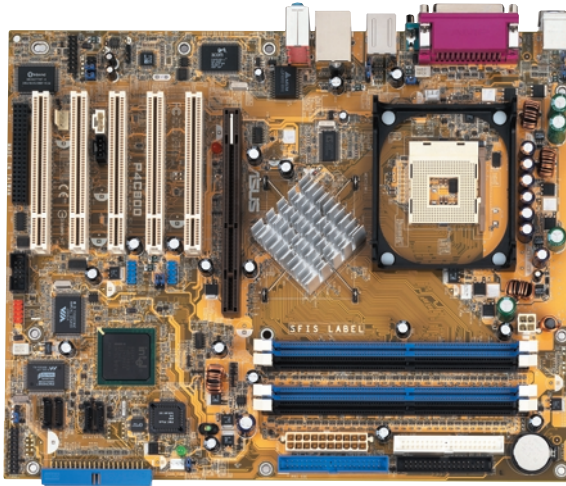
### Barracuda SATA V 120GB (Seagate)

PCを動かすのほぼすべての情報を保存しているHDDには、IDEタイプとSerial ATAタイプ、2種類が存在する。Serial ATAはデータ転送速度が最大150MB/secと、IDEの100, 133MB/secよりも高速なインターフェースだ。今後はSerial ATAタイプが主流になっていくことは間違いないが、現時点では性能にほとんど差はないので、どちらを選んでもかまわないだろう。容量はあればあるほどいいが、80～120GBクラスがコストパフォーマンスが高くお買い得である。





マザーボード



**P4C800 Deluxe** (ASUSTeK)

FSB 800MHz版のPentium 4に対応した最新のマザーボード。チップセットはIntel 875P(コードネーム:Canterwood)を搭載している。メモリはDDR400(規格の名称, PC3200ともいう)をデュアルチャンネルで使用できる、パフォーマンスを追求するユーザーのためのマザーボードだ。AGP 8Xモード, Serial ATAインターフェイスを装備するなど、機能面でも充実している。性能面にこだわりがなければ、X-series(p.42)といった廉価版のマザーボードを選んでかまわない。

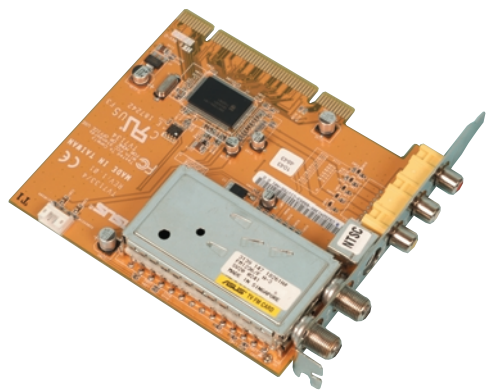
ビデオカード

**V9280S** (ASUSTeK)

ディスプレイの画面表示はこのビデオカード経由で行なわれる、グラフィック処理を専門に行なうビデオカードは、最近ほとんどが専用のAGPスロットに接続するタイプになっている。NVIDIAのGeForce4 Ti 4200-8Xを搭載、128MBのメモリを搭載する。AGP 8Xモードに対応し、3Dゲームなどのグラフィックスを高速に描画できる。V9280Sはメモリクロックが600MHzで、通常のGeForce4 Ti 4200-8X搭載製品より10%程度性能が高いとされている。また、このモデルもそうだが、最近ではデュアルディスプレイ出力やテレビ出力機能など、付加価値をアピールポイントにしているものも多い。



テレビチューナーカード



**TV FM Card** (ASUSTeK)

PCIスロットに取り付ける、PCの機能を拡張するカード。最近ではPC自作の必須パーツといっているほどテレビ録画ができるテレビチューナーカードの人気の高い。このカードはPCの画面上にテレビ表示を行い、付属のソフトウェアを使えば、テレビ番組の録画予約も行なえる。さらにラジオのFM放送を受信できるのがポイントだ。



**DRW-0402P** (ASUSTeK) ※パッケージはグローバル仕様です。日本国内では専用パッケージが用意されます。



**CRW-5224A** (ASUSTeK)

時代の最先端を行きたいなら、やはりDVD-R/-RWドライブだろう。DRW-0402PはDVD-Rメディアを最大4倍速で書き込み、フォーマットして書き直しが可能なDVD-RWメディアも最大2倍速で扱える。当然、自分でオリジナルDVDを作成できるし、1枚4.7GBという大容量も魅力である。あまり高速ではないが、CD-R/RWドライブの機能も持っているの、いろいろやりたいなら記録型DVDドライブを1台用意するとい。DVD-R/RWよりもCD-R/RWの使用頻度が高いなら、CRW-5224AのようなCD-R/RWドライブのほうがいだろう。CD-Rメディアに最大52倍速という、超高速でデータを書き込めるドライブだ。もちろんCD-ROMメディアの読み込みスピードも52倍速と高速、CD-RWメディアも24倍速で扱える。最近流行っている光学ドライブは記録型DVDドライブやDVD-ROM+CD-R/RWのコンボドライブだが、使用目的がはっきりしているなら、それぞれCD-ROMドライブでもかまわない。記録型DVDドライブとCD-R/RWドライブ、2台を搭載するという方法もある。



**MT-PRO1500** (星野金属工業)

星野金属工業が製造し、ソルダムから販売されているアルミ本体ケース。アルミを素材として採用することで多少高価にはなるが、軽量という大きなメリットがある。そしてこの本体ケース内部にさまざまなパーツを取り付け、配線することで自作マシンが完成する。このMT-PRO1500もそうだが、多くの本体ケースは電源ユニットとセットで扱われている。しかし、本体ケースと電源ユニットは別のパーツと考えておこう。

問い合わせ：ソルダム TEL 0276-30-3773

**D353M3D** (ミツミ)

ごくごく標準的な3.5インチフロッピーディスクドライブ。通常「FDD」と省略して表記したりする。最近ではCD-Rメディアの低価格化や、データサイズの巨大化で2HD 1.44MBというフロッピーディスクはあまり使用されなくなった。しかしちょっとしたデータの交換やBIOSのアップデートのときは、まだまだ活躍してる。



PC1台分のパーツがそろったら、いよいよ組み立て作業に入る。もう迷う必要はない。多少事前の準備と確認をしてから、組み立て作業に入ろう。

## 自作手順紹介

STEP

### 0-1 事前準備

INTEL

AMD

何はともあれ、最初にするのは揃えたパーツの確認である。何度も確認したはずなのに、いざ作業を初めてみるとメモリを買い忘れていた……などというのは笑い話でなく、実際によくあることなのだ。

パーツがそろっているのを確認したら、まずパーツを扱うさいの注意事項を知っておいてほしい。まず自作マシンのパーツは、一部を除いて精密電子機器なのである。そしてその多くは、接点部分が露出した状態になっている。この接点部分には、極力素手で触らないようにしましょう。接点が汚れると接触不良の原因になるし、例えばCPUの裏にあるピンを曲げてしまうと大変だ。もし壊れてしまったら、それこそウン万円するパーツが一瞬でガラクタになってしまう。「触らぬ接点にタタリなし」なのである。

また人体には、無視できない量の静電気が蓄積されている場合がある。それがパーツに対して放電してしまうと、内部回路に悪影響を及ぼす場合がある。これを防ぐには、組み立て作業を行う前に、例えば金属製の机の脚などに触れて静電気を逃がせばいい。

パーツに気を配るだけでなく、自分の手にも注意しよう。

例えばマザーボードの裏面には、細かなピンが大量に飛び出している。普通に触っている分には問題ないが、状況によってはそのピンで手を擦ったり、強く握ってピンが刺さったりという原因で怪我をすることも。また、パーツの角やエッジで手に怪我をするというのもよくある話だ。充分注意しながら作業するか、薄手の手袋を使うなどの配慮が欲しいところだ。

最後にもう一つ、自作マシンの組み立てに無理は禁物である。ネジがうまく入らない、パーツをコネクタにうまく差せないといった場合、「無理矢理」というのは絶対に避けてほしい。どちらも間違えていなければ、ごくまれにある初期不良を除いて、必ず入るものなのだ。コネクタが逆になっていないか、ネジが斜めに入っていないかといったことを、じっくり確認して作業しよう。

自作マシンは逃げないし、あなたに逆らうこともない。慌てず、急がず、無理をせず。じっくり楽しみながら組み立て作業を進めよう。そのほうが知識もつくし、仕上がりのきれいなPCになるはずだ。

Column

### パーツ以外に必要なもの

自作マシン1台分のパーツを揃えたら、組み立て作業に使う工具を用意しよう。といっても最低限必要なのはプラスドライバーと、ラジオペンチの二つだけである。もっとも本体ケースやパーツ構成によっては、ラジオペンチすら不要な場合がある。しかし、あると何かと便利な工具はいくつかある。例えばピンセット、ペンライト、ハサミ、カッターといったものである。ちなみにハサミやカッターは、パッケージを開けたりするのに使うだけだ。

ペンライトがあるのを意外に思う人もいるだろうが、これは本体ケースの内部を照ら

すさいに使用する。自作マシンは完成間際になると、本体ケースの内部がパーツやケーブルで混雑してくる。そのとき、例えばマザーボード上の細かい部分を確認するときなどにペンライトを使用すると便利なのである。そしてピンセットは、ピンヘッドに差し込まれた小さなスイッチ、ジャンパススイッチを扱うのに使用する。ジャンパススイッチはマザーボード上のほか、ドライブの設定などにも用いられている。





STEP

## 0-2 ケースの確認

INTEL

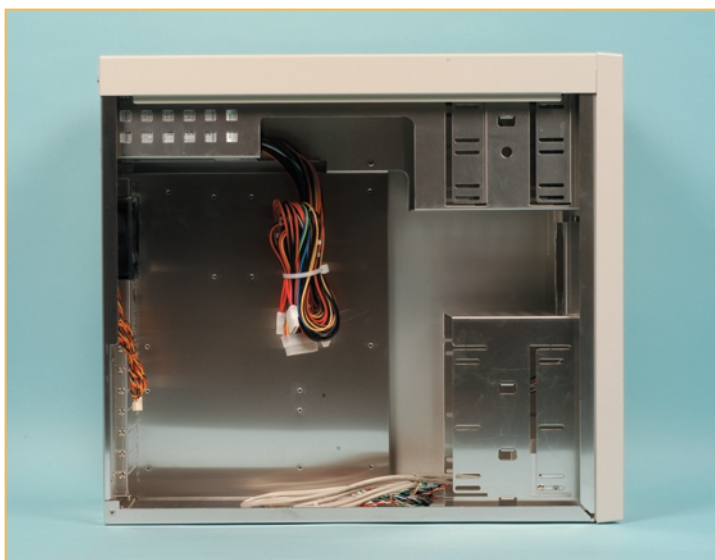
AMD

本コーナーで使用する本体ケースは、星野金属工業のMT-PRO1500である。パネルの素材にアルミを使用することで軽量化を実現し、ドライブを取り付けるスペース、すなわちベイと呼ばれる部分の自由度が高い本体ケースだ。電源ユニットは未搭載から450Wまでラインアップされており、好きなものを選べる。サイズのにはもっともスタンダードな「ミドルタワー」と呼ばれる大きさになっていて、価格的にも自作初心者にはピッタリだ。

基本的にこれから行なう自作の作業は、このMT-PRO1500にパーツを内蔵して配線を行う、ということだ。まずは本体ケースの箱を開けて、付属品が揃っているかを確認し、さらに内部の様子をじっくり見ておこう。また、ドライブベイのどの位置に、ドライブを搭載するかを、あらかじめ決めておくといいだろう。配線をどうするかといったことを含めて、これから行なう作業をシミュレーションしておくのも悪くない。



ポイントとなるのは、電源ケーブルの長さともザーボードのコネクタ位置。例えば、光学ドライブを一番上に持ってきても、IDEケーブルが届かないなどというトラブルが発生しないとも限らない。



### インチネジとミリネジ

基本的に自作マシンはドライバー1本で組み立てられる。要するに「ネジを緩める、締める」が主な作業で、ほかにはコネクタを接続する、ジャンプスイッチを操作するといった作業があるだけだ。そしてありがたいことに、自作マシンで使用するネジは、たった2種類しかないのである。それが「インチネジ」と「ミリネジ」だ。

両者の違いはネジ山の間隔、すなわちピッチにある。両者を写真や実物で比べ

てもらうと分かるが、インチネジは間隔が広く、ミリネジは間隔が狭い。そしてミリネジは光学ドライブやフロッピーディスクドライブの固定、本体ケースなどに使われ、インチネジはHDDや電源ユニットの固定に使われている。

なお、本体ケースの脚を取り付けるといった、特殊な場所には異なるネジが用いられる場合もある。



STEP

## 0-3 マザーボードの内容物

INTEL

AMD

本体ケースと同様、自作作業の中心になるのがマザーボードである。本コーナーではASUSTeKの最新製品、P4C800を使用している。最新の充実した機能を搭載しており、長く使える優れたもののマザーボードだ。

このマザーボードも事前に箱を開け、付属品が揃っているかを確認する。さらにマザーボードでは、マニュアルを見ながら、どこにどんなパーツを取り付けるかを確認しておこう。メインのマニュアルは英語版だが、日本語のクイックマニュアル

も付属しているし、英語版のマニュアルもイラスト入りで難しいものではない。

とくに確認してほしいのがコネクタの配置である。マザーボードには電源ケーブルを接続するし、ドライブを接続するケーブルも接続する。さらに本体ケースのスイッチやLEDランプと接続する部分もある。「マニュアルはあまり読まない」という人もいるだろうが、マザーボードに関しては熟読してほしい。



箱の中には、マザーボード本体だけでなく、マニュアル、ドライバCD、ドライブ類を接続するケーブルなどが入っている。外箱には製品スペックが書かれたシールが貼ってあるので、買うときの参考になる

STEP

## 1 CPUの取り付け

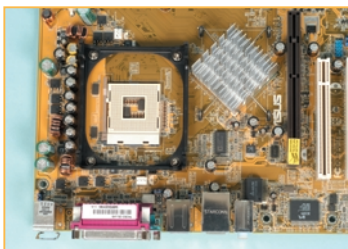
INTEL

AMD

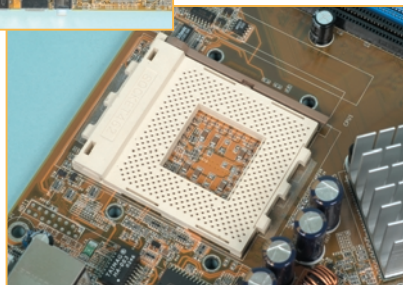
マザーボードをじっくり眺め、マニュアルと見比べたら、いよいよ組み立て作業開始である。まず最初に、PCとしての主要パーツであるCPUをマザーボードに取り付けよう。なお、本体ケースの中にはマザーボードを取り付けるベースプレートを取り外せるものもあり、そういった場合はマザーボードをベースプレートに固定してから作業を開始してもいい。

本体ケースの中は狭いので、マザーボードが外にある状態で作業をしたほうがいいと思うのだが、ベースプレートが本体内部に固定されているタイプの本体ケースでも、マザーボードを固定してから作業を開始してもかまわない。

それでは早速CPUを取り付けよう。なお、CPUの取り付けは、Pentium 4系とAthlon XP系で、若干見ためと作業が異なるので、別々に紹介する。



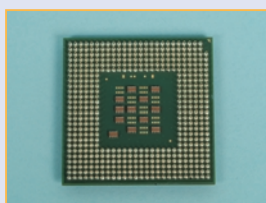
左がPentium 4用のmPGA478ソケット、下がAthlon XP用のSocket A。大きさもピンの数も物理的に異なるため、互換性はまったくない



INTEL

## CPUソケットの確認

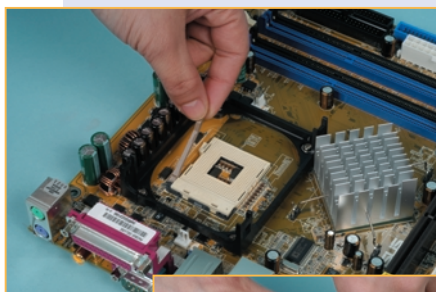
Celeronを含むPentium 4系のCPUは、mPGA478に装着する。CPUを裏返してピンの配置を見ると、ピンのない角があるはずだ。CPUソケットの方を見ると、そのピンのない角に対応していることが分かる。これにより誤った装着を防止しているのである



CPUの裏を見ると、1か所だけピンが欠けている部分がある(写真では右上)。ソケット側にも同様に穴がない部分があるので、それを目印にする

## CPUをソケットに装着する

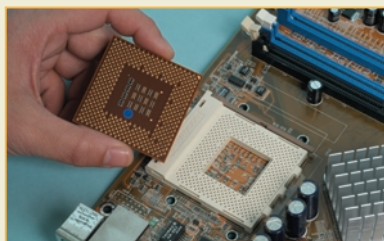
まずCPUソケットの脇にあるレバーを、軽く外側に広げようようにしながら、90度以上になるよう引き上げる。そしてCPUをピンで合せながらしっかり差し込む。この状態でCPUの表面を軽く押さえながらレバーを倒し、CPUが固定されるようにする。レバーはきっちりロックされるまで倒すこと。



AMD

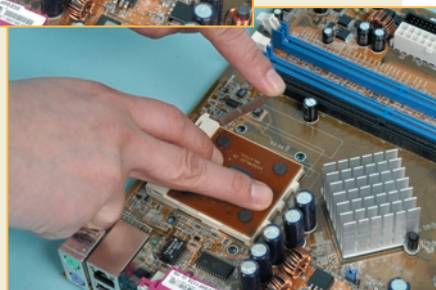
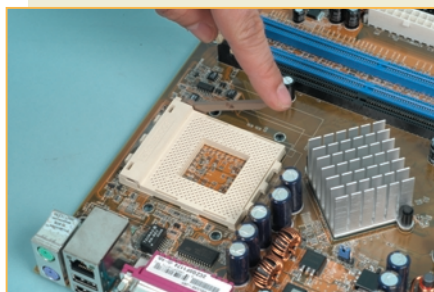
## CPUソケットの確認

Athlon XPは、SocketAという名称のCPUソケットへ装着する。Pentium 4と同じようにCPUのピン側を見ると、やはりピンのない角があり、CPUを装着するときの目安になる



## CPUをソケットに装着する

ソケットのわきにあるレバーを多少外側へ開くようにして、一杯まで引き上げる。その状態でCPUをソケットに差し込み、表面を押さえるようにしながらレバーがロックされるまで戻す。ちなみにAthlon XP系CPUの表面中央にある突起、これはCPUコアと呼ばれるものだ。比較的もろい構造なので、CPU取り付け時は慎重に扱うようにしたい。





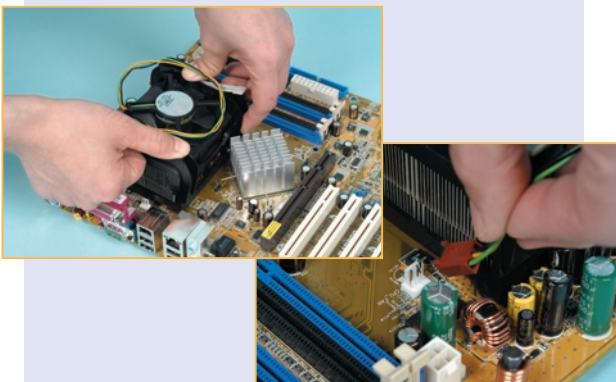
## シリコングリスを塗る

次にCPUとCPUクーラーを密着させ、効率よくCPUの熱をCPUクーラーに伝えるシリコングリスをCPUの表面に塗る。コツは薄く均等に塗ること。名刺の角などを使ってもいいが、指の腹で丹念に広げてもいい。なお、製品によってはシリコングリスの代わりに黒いシールのようなものが貼られているが、この場合はグリスを塗る工程を省いてCPUクーラーを取り付けていい。



## CPUクーラーを装着する

次にCPU付属のCPUクーラーを載せる。CPUクーラーとCPUがピッタリ密着するように載せるのがコツだ。しっかり載ったら、固定器具のツメをマザーボード側のフレームと確実に噛み合わせ、2本あるレバーをそれぞれ反対側に倒してCPUクーラーを固定する。あとはCPUクーラーの電動ファンから伸びているケーブルを、マザーボード上のコネクタに接続する。これを忘れると熱処理がうまく行かないので、絶対忘れないこと。



## シリコングリスを塗る

Athlon XPの場合は、CPU表面全体にシリコングリスを塗る必要はない。CPUコアの表面だけを覆いつくすように、薄く均等に塗るのがコツだ。なお、CPUクーラーがCPUとは別に販売されているように、シリコングリスも単体で販売されている。CPUの着脱を頻繁に行うなら、シリコングリスを購入しておこう。



## CPUクーラーを装着する

Athlon XPの装着は、ソケットのツメに金具を引っかけて固定する(一部、異なるタイプもある)。この金具をツメに引っかけるさいにはマイナスドライバーの先を使うのだが、固定金具が固いと力の入れすぎでドライバーの先が滑ってマザーボードを直撃、壊してしまうことがあるので、十分注意しよう。さらにAthlon XP系CPUは、先ほども書いたがCPUコアがデリケートだ。CPUクーラーの底面をCPUコアの角へ無理に押しつけて破損する、という事故もあるので充分注意しよう。CPUクーラーの装着が終わったら、あとはPentium 4同様、電動ファンのケーブルをマザーボード上のコネクタへ接続する。



STEP

## 2 メモリの取り付け

INTEL

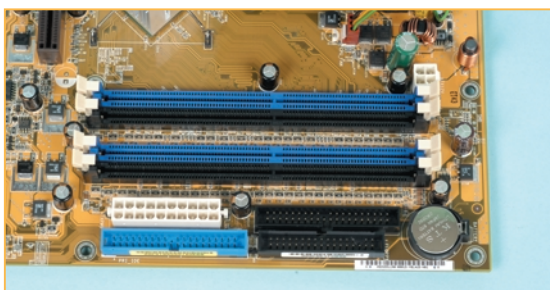
AMD

CPUの次はメモリモジュールの取り付けである。マザーボードの今後の主流はデュアルチャンネルDDRであることは間違いなく、今回はハイエンドマザーボードのP4C800とDDR400を利用して解説している。デュアルチャンネルを有効にするには、同じメモリを2枚セットで、指定されたメモリスロットに装着する必要がある。

Athlon XPでも、nForce2-STを搭載したA7N8XがデュアルチャンネルDDR400をサポートしている。こちらの場合も、同じ色のメモリスロットに同じメモリを差したときに、デュアルチャンネルが有効になる。ただしこちらの場合、3本しかスロットがないので青のメモリスロットに差すことになる。

### メモリスロットの確認

まずはP4C800上のメモリスロットを確認してみよう。P4C800にはDDR400に対応したメモリスロットが4本用意されており、ここにメモリを2本セットでマニュアルの指示どおりに装着すると、デュアルチャンネルで使用できる。デュアルチャンネルはメモリへ高速にアクセスする方法なので、システム全体のパフォーマンスを向上させられる。P4C800を使用する場合はぜひこのデュアルチャンネルを使いたい。面倒に感じるかもしれないが、今回取り上げたP4C800では、メモリスロットが青と黒に色分けされているのは、同じ色(青、または黒同士)のスロットに差せばデュアルチャンネルが有効になるということだ。なおP4C800では、FSB 800MHzとDDR400デュアルチャンネルの組み合わせ時のみ、インテルPAT(Performance Acceleration Technology)が有効になり、メモリアクセスが通常よりさらに高速になる。

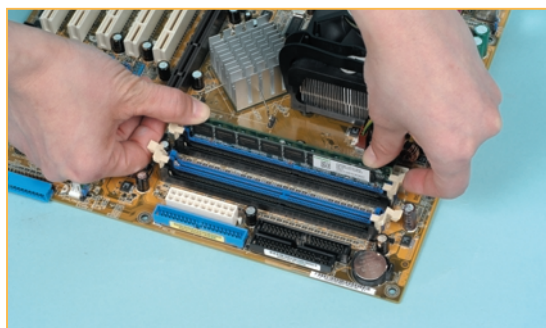
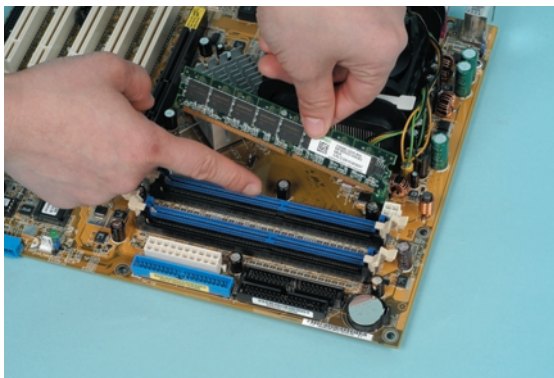


2本のメモリモジュールがデュアルチャンネルで動作するように、青いメモリスロットにそれぞれ装着する。メモリモジュールの接点部分には、中央よりズレた場所に切り欠きがある。この切り欠きがメモリスロットの突起と合うようになっているので、左右を間違えないように作業しよう。

### メモリの固定

スロット両端のツメを広げたら、溝に合わせてメモリモジュールを差し込む。メモリモジュールが底に軽く当たったら、真上から左右均等にグッと力を加える。左右の白いツメが起き上がってロックされるまで、思い切って押し込もう。

### スロット左右のツメを広げる



STEP

## 3 マザーボードの固定

マザーボードにCPUとメモリを搭載したら、それを丸ごと本体ケースの中に入れて固定しよう。作業自体は単純なもの

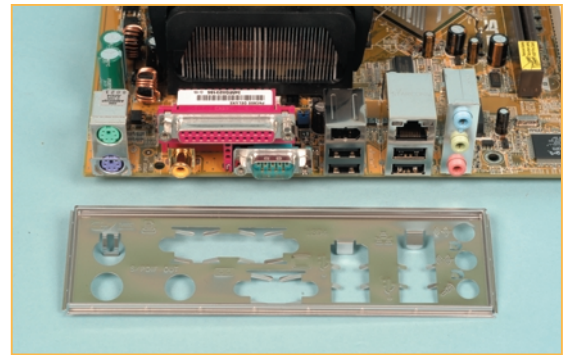
INTEL

AMD

だが、マザーボード自体が精密電子機器で、その上にCPUとメモリが搭載されている。十分注意して扱うようにしたい。

### I/O パネルの確認と交換

マザーボードを取り付ける前に、本体ケース背面にあるI/Oポートを、マザーボードと見比べてみよう。するとポートの配置が異なっていることが分かる。このままでは使えないので、I/Oポート部分のパネルを、マザーボードに付属したものと交換しよう。本体ケースに標準付属しているI/Oポートパネルは、外から内側へ押すことで取り外せる。マザーボードに付属したものを取り付けるときは、上下を間違えないように取り付けてほしい。



### スペーサーの取り付け

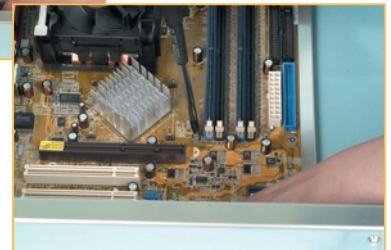
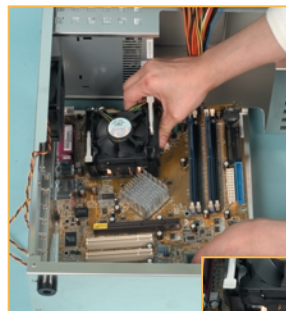
次に本体ケース内部の、マザーボードを取り付けるパネルにスペーサーを固定する。今回の本体ケースには、真鍮製でねじ込むタイプのスペーサーが複数付属している。P4C800はスペーサーを10個使って、マザーボードを固定する。実際のマザーボードの穴と本体ケースの穴を比較して、スペーサーを取り付けよう。そしてこの取り付けのさいにラジオベ

ンチが登場する。ただし、締めすぎないように注意して作業しよう。



### マザーボードの固定

スペーサーを取り付けたら、その上にマザーボードを載せるように置き、ミリネジで固定していく。スペーサーの穴とマザーボードの穴が若干ズレるのはよくあること。そういったときは、マザーボードをI/Oポート側に多少押しつけるようにしてネジ穴を合わせる。ネジを締めるときは、対角線の順に仮止めをし、そのあとしっかりと固定するといいだろう。





STEP

## 4 拡張カードの取り付け

INTEL

AMD

マザーボードを固定したら、次はマザーボードと本体ケースにまたがって固定する拡張カードを取り付けよう。ここでは画面表示を担当するビデオカードと、PCにテレビ機能とラジオ機能を追加するTV FM CARDを取り付ける。拡

張カードはPCIスロット(マザーボードの白いスロット)に取り付けるのだが、基本的に手順はすべて一緒だ。後から拡張カードを追加して、機能を強化するときも同じ手順を踏めばいい。

### ブラケットの取り外し

まずマザーボードを見て、ビデオカードとTV FM CARDを取り付ける拡張スロットの位置を確認する。ここで使用するビデオカードはASUSTeKのV9280Sである。このビデオカードは、ビデオカード専用のAGPスロットに取り付ける。そしてAGPはP4C800に限らず、マザーボード上に1本だけ搭載されている。一方、TV FM CARDはAGP以外の拡張スロット、P4C800には5本用意されているPCIスロットに取り付ける。

TV FM CARDはどのPCIスロットに取り付けてもかまわないのだが、作業しやすい場所にしたほうがいい。カードを取り付ける位置が決まったら、拡張スロットのカバー(ブラケット)を本体ケースから取り外す。ブラケットはネジで固定されており、そのネジは後でカードを固定するのに使用する。



ボードによっては、AGPスロットにビデオカード固定パーツを搭載したものがある。そういった場合は、レバーを倒してからカードを差して、レバーが起き上がってカードが固定されるまでを押し込む目安にするといい。

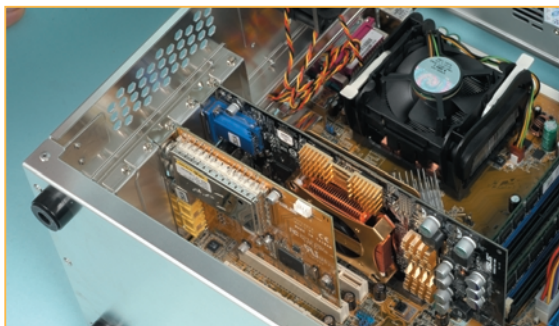
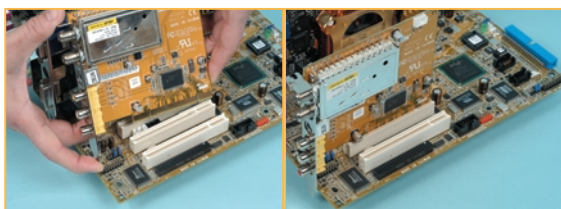


### ネジを締めて固定する

後はブラケットを固定したネジを元に戻して終了だ。なお、ビデオカードにはディスプレイを接続するためのコネクタの接続、TV FM CARDには音声を伝えるための配線、リモコン操作用の配線などがある。これらは付属のマニュアルを参照して作業してほしい。

### カードの装着

拡張カードはまっすぐ垂直に、スロットの奥までしっかり差し込む。よくある失敗に、拡張カードがしっかり差していなかったというのがあるので注意してほしい。また、マザー



STEP

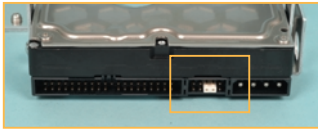
## 5 ドライブの取り付け

ドライブの取り付け方法は、本体ケースによって異なる場合が多いので、ここでは光学ドライブ、HDD、FDDの3種類の取り付け方法を説明しよう。

HDDと光学ドライブは、事前にマスター/スレーブ設定という準備が必要だ。どちらも接続する規格はIDEと呼ばれるもので(光学ドライブは厳密にいうとATAPI規格)、この規格ではケーブル1本に最大2台のドライブを接続できる。そして1本のケーブルに2台のドライブを接続する場合は、一方をマスターに、もう一方をスレーブに設定してやらず

### HDD

HDDには、IDEとSerial ATA接続の2種類がある。IDE接続の場合、HDDはプライマリにマスターとして接続するので、まずは



HDDの背面にあるジャンプスイッチをマスターに設定しよう。通常、購入したばかりのハードディスクドライブはマスターかケーブルセレクト(CableSelect)に設定されている。ジャンプスイッチのマスター設定の方法は、HDDのラベルに記入されている場合がほとんどだ。それを見て、まずマスターに設定しよう。Serial ATA接続の場合もっと簡単で、専用のケーブルでHDDとマザーボードをつなぐだけでいい。

### 光学ドライブ

光学ドライブもIDEコネクタへ接続する。先ほども触れたが光学ドライブの規格はATAPIと呼ばれるのだが、このATAPI規格はIDEに内包されるものである。両者はほぼ同じものと考えてもいい。

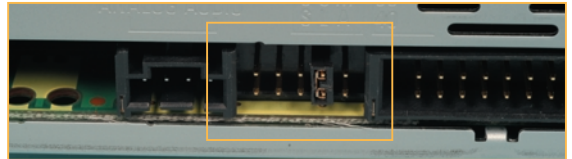
ここでは、光学ドライブはマザーボードのセカンダリマスターに設定して接続する。光学ドライブは、背面のIDEコネクタの隣にあるジャンプスイッチで設定を行なう。違う場所にあるときはMA(=マスター)にジャンプを差せばいい。ちなみに、べ

INTEL

AMD

てはならないのだ。

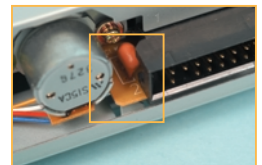
マザーボード上には、IDEのコネクタが二つ用意されている。従ってIDEだけで最大4台のドライブを接続できる訳だ。マザーボード上に二つあるIDEコネクタは、それぞれプライマリ、セカンダリと呼ばれる場合が多い。また、P4C800の場合はSerial ATAも装備しているので、さらに2台のドライブを接続できる。なお、光学ドライブとFDDは取り付けにミリネジを使用し、HDDはインチネジを使用する(p.12コラム参照)。



アボーンなど省スペースPCで1本のケーブルにHDDと光学ドライブを接続する場合、SL(=スレーブ)に設定してIDEケーブルのスレーブ側コネクタに接続しよう。分からない場合は、CS(=ケーブルセレクト)に設定しても問題は起きない。

### FDD

FDDには設定がないので、そのまま取り付けていいのだが、ケーブルを差す方向に注意したい。取り付け前にフラットケーブルを接続するコネクタをよく見て、「1」や「2」、「▲」のような印のある側を確認しておく。この印は、フラットケーブルを接続するための基準となるからだ。



フラットケーブルはマザーボードに付属するものを使用するが、ドライブにはねじれのあるほうの端のコネクタを使用する。ふつうはコネクタに突起があり、逆差しができないようになっているが、もしコネクタに突起がなく、どの方向に差せばいいか分からない場合は、1番ピンを基準にする。ラインのどちらか一方に印があるか、ライン自体が赤く塗られているはずだ。そちら側が1番ライン、1番ピンという印なのだ。

STEP

## 6 配線と収納

INTEL

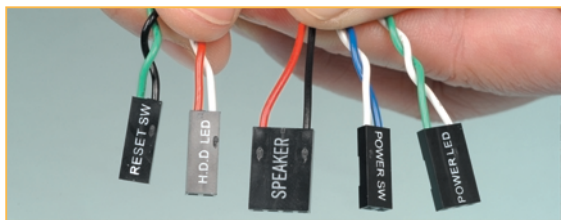
AMD

マザーボード、拡張カード、ドライブ類を取り付ければ、組み立て完了まであと少し。マザーボードやドライブに電源コネ

クタを差し込み、ドライブとマザーボードをケーブルで接続すれば終了である。

## マザーボードと本体ケースの接続

本体ケースから伸びているスイッチやLEDランプ、スピーカーのコネクタをマザーボードのピンヘッダに接続する。LEDランプには極性があるので、マザーボードのマニュアルで確認して差し込もう。ちなみに本体ケースから伸びているコネクタのケーブルは通常、白か黒のラインが「-」、赤か白黒以外のラインが「+」である。LEDランプは極性を間違えると光らないが、壊れたりしないので落ち着いて差し直せばいい。



## HDD/光学ドライブの配線

HDD/光学ドライブの配線は、電源コネクタとフラットケーブルを使用したマザーボードとの接続である。マザーボードに付属しているフラットケーブルは2種類付属している場合があるが、ラインの目の細かいほうをHDDに使わないと性能がフルに発揮されないので注意が必要だ。ただ、今回使用したP4C800のように、ケーブルに接続すべきドライブが明記してれば問題ない。ケーブルに書いてあるドライブを接続しよう。電源コネクタは、電源ユニットから伸びている4ピンコネクタの大きなほうを接続する。

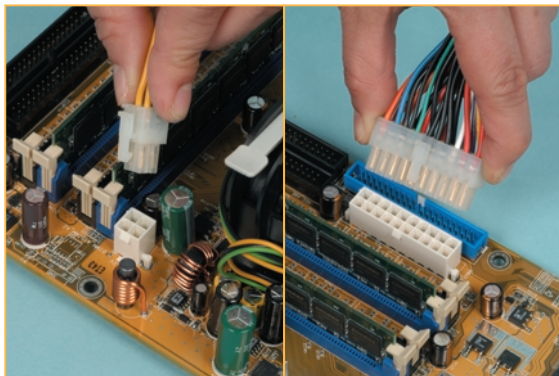


## FDDの配線

FDDの配線は、電源とフラットケーブルだけである。電源コネクタは小さな4ピンのほうを使用する。先に説明したように、ケーブルの方向を間違えないように気をつけよう。

## マザーボードの電源を接続する

マザーボードに電源ユニットから伸びているATX電源コネクタと、+12Vパワーコネクタを接続する。どちらも形状がほかとははっきり異なっており、差す方向も決まっているので安心だ。どちらももしっかり奥まで差してあることを確認しよう。



## ケーブルを整理する

配線が終わると、本体ケースの内部は、ケーブルでかなり混雑しているはずだ。機能に支障がなければそのままでもいいのだが、ある程度整理したほうがトラブルを未然に防げるし気持ちもいい。ケーブルの整理には市販の結束バンドなどが役立ってくれる。コツとしてはある程度余裕を持たせて、無理な力をケーブルに加えず整理するということだ。ケーブルを整理すれば、本体ケース内部の空調が妨げられ、熱がこもることを避けられるのだ。



## Column 動作確認をする

接続し忘れたケーブルはないだろうか？逆に接続したコネクタはないだろうか？そもそもコネクタは正しく差さっているだろうか？初めての自作だと、何度確認しても不安が消えることはないだろう。まずキーボード、マウス、ディスプレイを背面のI/Oポートに接続しよう。PS/2対応のキーボードとマウスを使用する場合は、ポートの形状が一緒なのでコネクタの色を確認するようにしたい。

最低限の周辺機器を接続し終わったら、電源ユニットのメインスイッチをオンにしよう。「I」のマークがオン、「O」のマークがオフだ。

メインスイッチが入ったら、いよいよ緊張の初動である。本体ケース前面にある電源スイッチを、軽く一回押す。電源が入ってドライブなどが動きだし、画面にマザーボードのロゴが表示され、ピープ音と呼ばれる確認音が「ピッ」と鳴ったら大成功である。

一方、ピープ音が「ピッ」ではなく、「ピーッピッピッ」といったように連続して鳴る場合は、どこかにトラブルがある。また、FDDの電源ランプが点灯したままになるといったトラブルも多い。こういった状況になったら、いったん電源を切って、配線やパーツの取り付

け状況を確認しよう。電源を切るには、電源スイッチをしばらく押し続けるか、電源ユニットのメインスイッチを切ればいい。

もし電源スイッチを押しても電源が入らない場合は、まず本体ケースの電源スイッチのコネクタが、ちゃんと正しい位置に接続されているかを確認する。それでも電源が入らない場合は、CPUやメモリの取り付け状況、マザーボードへの電源配線などを、もう一度じっくり確認しよう。コネクタがしっかり差さっていなかったとか、コンセントが入っていなかったというのも、実はよくある話なのだ。

STEP

# 7 BIOSのセットアップとOSインストールの準備

INTEL

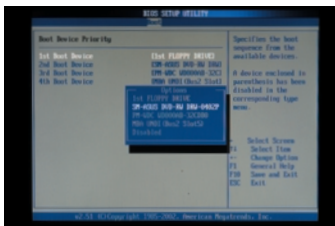
AMD

## BIOSを呼び出そう

BIOSの画面を呼び出すにはPCが起動し、システムの呼び出しが始まる前に[DEL]キーを押す。BIOSの設定が起動すると、次のような画面が表示される。この画面でBIOSの設定、すなわちPCの基本的な設定を変更する。

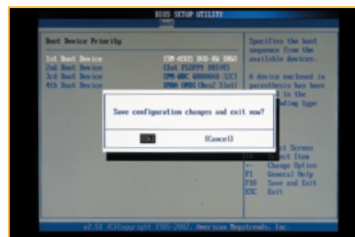
## 光学ドライブを起動ドライブに設定する

OSをインストールするのに便利なよう、起動ディスクを変更しよう。左右の矢印キーを操作して、メニューバーの「Boot Menu」(画面上ではBoot)を表示しよう。画面がBoot Menuになったら、メニュー内の「Boot Device Priority」(起動デバイスの順番)にカーソルを合わせて[Enter]キーを押す。「1st Boot Device」にカーソルを合せ[Enter]キーを押すと、デバイスの一覧が表示される。その中から光学ドライブを選択し[Enter]キーを押す。これで最初に起動を試みるドライブが光学ドライブに設定できた。



## BIOS設定の終了

BIOSの設定が終わったら[F10]キーを押し、「Save & Exit」を実行する。すると画面には「Save～」というメッセージが表示されるので、「Ok」にカーソルを合わせて[Enter]キーを押す。マシンが再起動し、BIOSの設定が反映された状態で起動する。



## 最後のひとふんばり! OSをインストールしよう!

ここまで来たら、あとはOSのインストールを残すのみ。CD-ROMメディアからOSインストールプログラムが起動したら、あとはその指示に従えばいい。さらにOSのインストールが完了したら、次にマザーボード、ビデオカード、拡張カードなどのドライブと付属ソフトをインストールしなくてはならない。この作業が終わって初めて、自作マシンはPCとして完成したことになるのだ。

# ASUS

特別企画

# テクニカル ガイド

台湾本国はもちろん、日本をはじめとする海外においてもその名前を知らない人はいないというほどのメジャーブランドに成長した

ASUS。その製品が国内外から高い評価を受けている理由は、最新CPUや最新チップセットにいち早く対応することが挙げられる。それとともに、ギガビットLANやSerial ATAを積極的に導入してきたように、最新のテクノロジートレンドを即座に反映しつつも、安定性と性能両面に優れた製品を製造し続けている技術力にあるだろう。ここではCPUとチップセットの技術動向をにらみつつ、同社の製品計画を見ていこう。

Text by 鈴木雅暢





# CPU/チップセットのトレンド

——インテル編——



**イ**ンテルのCPUとチップセットは、この春までに大きなブレイクスルーを迎えている。CPUに関しては、先日FSB 800MHzに対応したPentium 4/3GHzがリリースされたが、それに合わせ、FSB 800MHz化した下位クロックグレードのPentium 4もまもなく投入すると見られている。また、これまで3.06GHz以上のPentium 4にしか搭載されていなかったHyper-Threadingテクノロジーが導入され、いよいよHyper-Threadingテクノロジーが普及段階に突入するということだ。しばらくはこのFSB 800MHzとHyper-Threadingの両輪がインテルプラットフォームのトレンドとなる。

プラットフォームの進化も著しい。ASUSから先日リリース

## Pentium 4のFSB 800MHz化、Hyper-Threadingテクノロジーも普及段階へ

されたP4C800 Deluxeに搭載されているCanterwood(開発コードネーム)とIntel 875Pチップセットは、FSB 800MHzとデュアルチャネルDDR400、AGP 8Xに対応し、ネットワークチップ接続用の高速インターフェースCommunication Streaming Architecture(CSA)も搭載。ノースブリッジであるMCH内のレイテンシを最適化し、システムパフォーマンスを向上させるPerformance Acceleration Technology(PAT)というテクノロジーも導入されている。サウスブリッジもICH5に進化し、8ポートのUSB 2.0をサポートするほか、これまでのUltra ATA/100対応IDEコントローラに加えて、Serial ATAコントローラを標準で内蔵する。上位版のICH5RではSerial ATA HDDのソフトウェアRAID(ストライピング)もサポートするなど、目新しくかつ魅力的なフィーチャーが多く盛り込まれている。

原稿執筆時点(4月上旬)ではまだ確定はしていないが、また新しいインテル製プラットフォームを搭載した新製品のラッシュが始まる。ASUSからは「P4P800」「P4P800-V」「P4P800-VM」、そして「P4P8X」の4製品が矢継ぎ早に

市場投入されるが、これらはそれぞれ、3種類のメインストリーム向けプラットフォームSpringdale-PE/P/G(いずれも開発コードネーム)を搭載したものである。

P4P800に搭載されるSpringdale-PEは、ECCメモリとPATへの対応以外はIntel 875Pと変わらないスペックとなる。これを搭載したP4P800は当然同社の主力製品となるだろう。

一方、そのSpringdale-PEのグラフィックスコア内蔵版がSpringdale-Gで、それを搭載するのがP4P800-VとP4P800-VMだ。オンボードのグラフィックス機能はIntel 845GEチップセット内蔵のコアよりもパフォーマンス面での改良が加えられているといわれ、その性能には大いに注目したいところだ。

これらより下位のセグメントをターゲットにしたP4P8Xが搭載するSpringdale-Pチップセットは、FSB 800MHzとDDR400には対応しないものの、FSB 533MHzと

PC2700およびPC2100のデュアルチャネルアクセスに対応、AGP 8XとCSAにも対応する。ミドルレンジの製品ながら、性能面でも数か月前には最速を誇っていたIntel E7205搭載マザーボード以上のポテンシャルを持っている。

なお、Intel 875P以降のインテル製プラットフォームの対応CPUには次世代Pentium 4であるPrescott(開発コードネーム)も含まれている。インテルの製品戦略はここところ大幅な変更が目立つだけに確実な保証はできないものの、アクシデント的なことがない限り「Prescott Ready」なプラットフォームと考えていいだろう。当然、P4P800、P4P800-V、P4P800-VM、P4P8XでもPrescottのサポートが予定されている。

サードパーティのチップセットメーカーの動向も無視できない。とくにSiS(Silicon Integrated Systems)はASUS、Rambus、Samsungとチップセットの共同開発を発表し、4チャンネルDirect RDRAMをサポートするSiS R659のリリースを予定している。ほかのマザーボードメーカーには真似できない、ASUSの技術力の表われともいえる出来事だろう。



図1 ASUSマザーボードのロードマップ(単体チップセット)

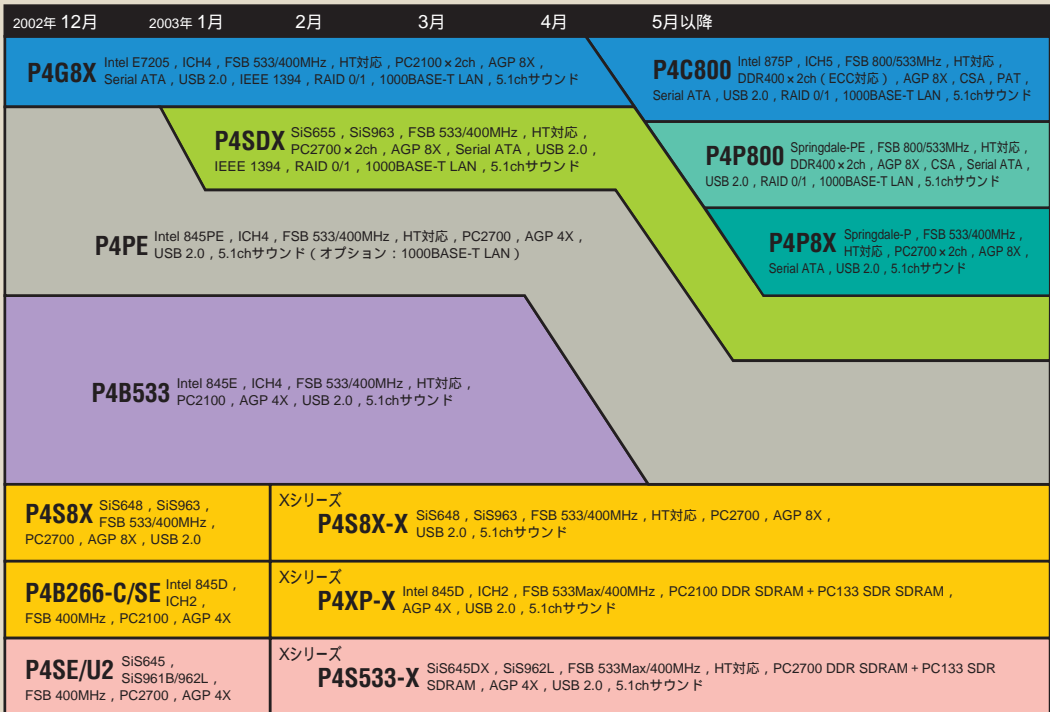
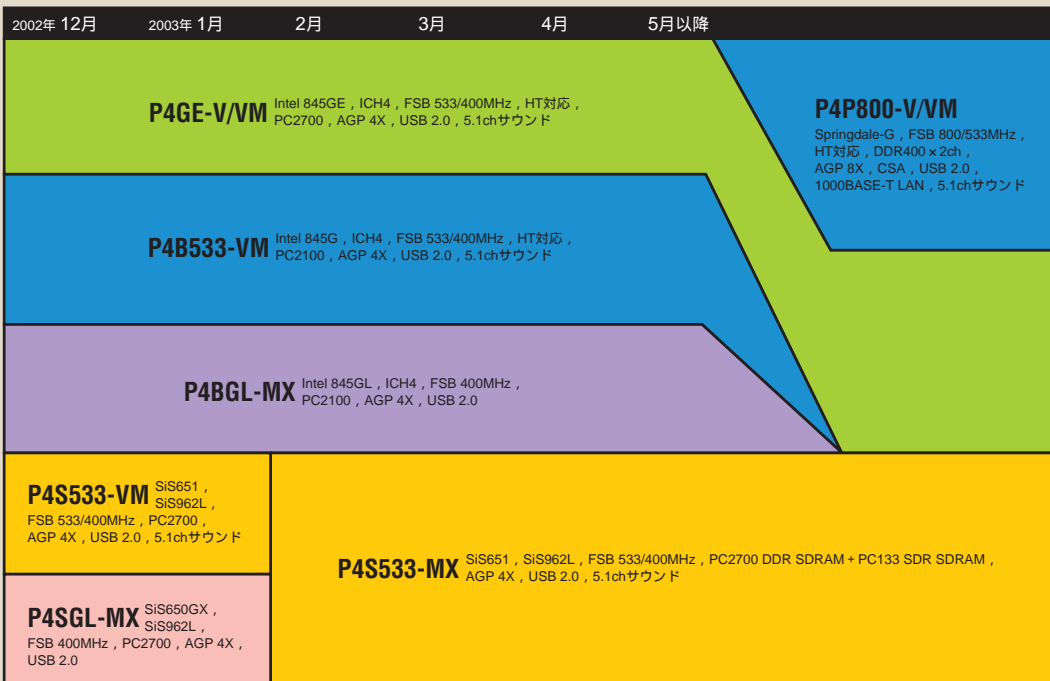


図2 ASUSマザーボードのロードマップ(グラフィックス機能統合型チップセット)



## P4C800 Deluxe

ASUSTeK 価格：2万9000円前後

### 使い勝手に優れた 高機能マザーボード

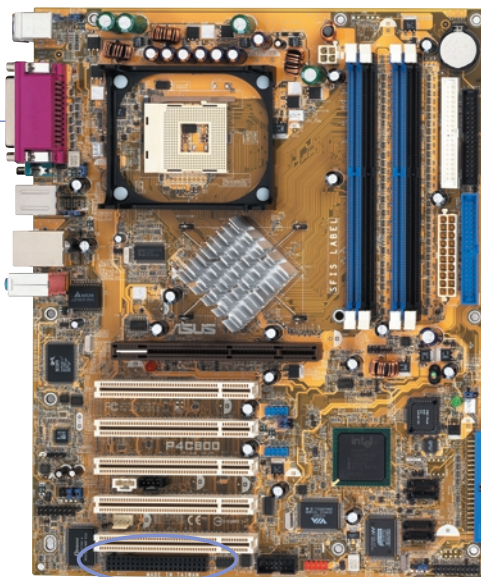
P4C800 Deluxeは、「AIテクノロジー」と名付けられた機能を搭載する「AI」シリーズの第1弾としてリリースされる製品である。AIテクノロジーは、ユーザーの利便性を高めるための機能であり、初心者はもちろん、中上級者にとっても有用であろう（P.43参照）。

本製品は、3Comの1000BASE-T LANコントローラ「3C940」をPCI接続で採用している。また拡張スロットでは、AGPスロットがAGP Pro対応であることと、無線LAN機能を追加できる「ASUS Wi-Fi wireless connector」を搭載していることなどが特徴だ。

BIOSで設定可能な項目も豊富で、FSBクロックやCPUコア電圧、メモリ電圧、AGP電圧などの変更が可能である。

そのほかのオンボードフィーチャーでは、5.1chサウンド、IEEE 1394コントローラ（VT6307、バックパネルに1ポートを実装）、Promise TechnologyのSerial ATA/IDE対応RAIDコントローラ「PDC20378」などを搭載している。

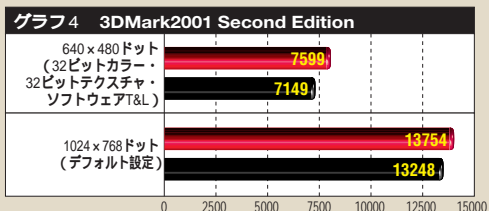
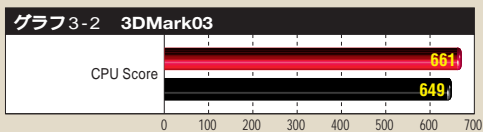
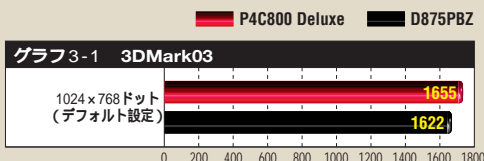
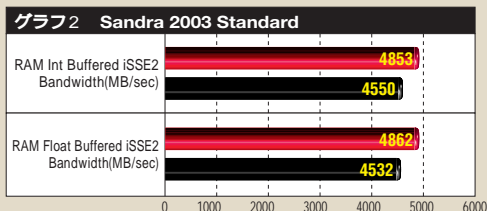
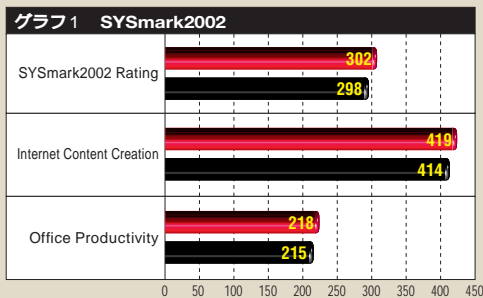
（石井英男）



#### ● ASUS Wi-Fi wireless connectorを装備

独自形状のASUS Wi-Fi wireless connectorを装備している。オプションの無線LANカードを装着することで、無線LAN機能を追加できる。Springdale搭載マザーボードにも同スロットが装備される見込みだ。

インテル製 Intel 875P 搭載マザーボードとの比較



# CPU/チップセットのトレンド

## —AMD編—

**A**SUSはAMDプラットフォームのマザーボードにも大きな実績を持つ。CPUの仕様が新しくなればいち早く対応し、また最新プラットフォームが登場すればそれを搭載した製品をアップデートでリリースしてきた。Athlon XPの後継となるAthlon 64の登場が今年9月にずれ込んでしまったため、ここ1年ほどのマザーボードの動きを振り返ってみよう。

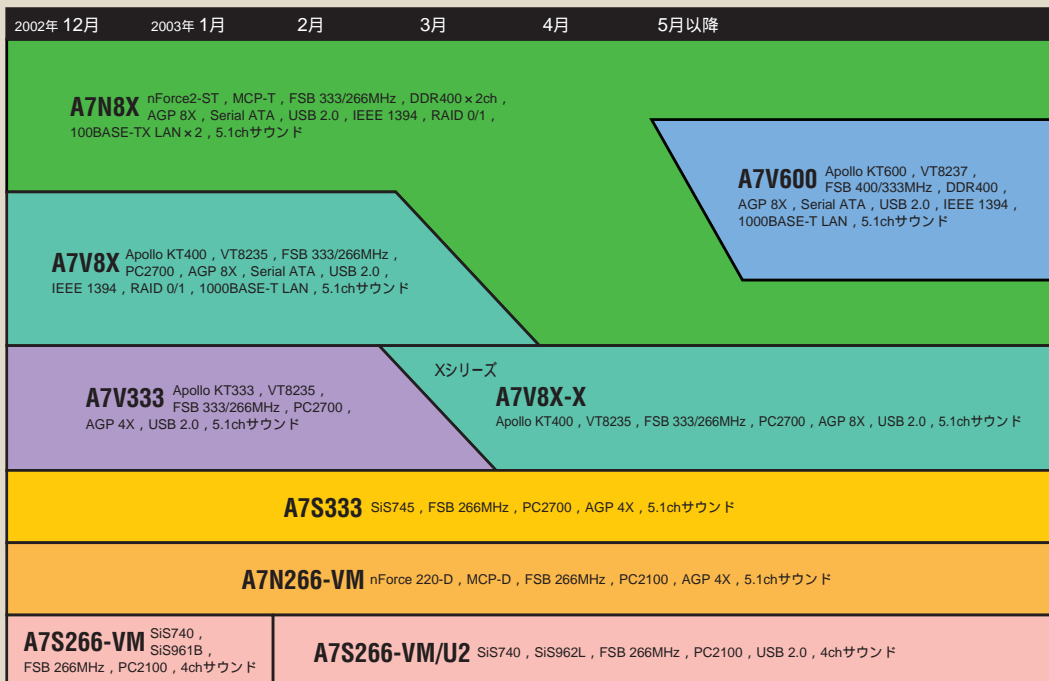
まず大きな動きとしては、2002年2月下旬、それまでAthlon XPの主力プラットフォームであったApollo KT266/Aに代わり、PC2700に対応したApollo KT333チップセットが登場したことが挙げられるだろう。それを搭載したASUSTeKのA7V333も3月中旬には秋葉原の店

頭でも販売が開始されたが、Ultra ATA/133 RAIDやIEEE 1394、そして当時はサウスブリッジに統合されていなかったUSB 2.0など、豊富なオンボード機能を用意していた。それに加えて、CPUのオーバーヒートによる焼損防止機能であるC.O.P.技術を先駆けて搭載したのが評価され、ベストセラーとなっている。また、5月には

## AMDプラットフォームをリードするASUS

A7S333が投入されたが、こちらはSiS745チップセットを搭載する数少ない製品であると同時に、リリース前のThoroughbredコアのAthlon XPへの対応を公式にうたったことでも話題を呼んだ。そのThoroughbredコアのAthlon XPは、その後6月に2200+のモデルナンバーでデビューし、8月には上位グレードの2400+と2600+

図2 ASUSマザーボードのロードマップ(AMDプラットフォーム向けチップセット)





が追加されている。

そして8月下旬、Apollo KT400の発表とほぼ同じタイミングでASUSから投入されたApollo KT400搭載マザーボード「A7V8X」には、ギガビットLANやSerial ATA対応RAIDコントローラがオンボード搭載された。これらを現在とりまく状況はご存じのとおりで、まさに半年先のテクノロジートレンドを詰め込んでいたことになる。

10月にはFSB 333MHz化を果たしたThoroughbredコアのAthlon XP/2700+, 2800+が発表された(ただし2800+は原稿執筆時点でも未発売)。それらのリファレンスプラットフォームとして採用されたのが、NVIDIAのnForce2-STチップセットを搭載したA7N8X Deluxeだ(下のコラム参照)。デュアルチャネルのDDR400とAGP 8Xに対応し、サウスブリッジのMCP-TはUSB2.0, IEEE 1394, 2系統のLANコントローラを内蔵するという、チップセット豪華な仕様を生かしている。同製品は市場にもほかのメーカー製品に先駆けて投入され、その性能の優秀さは非常に高い評価を受けている。

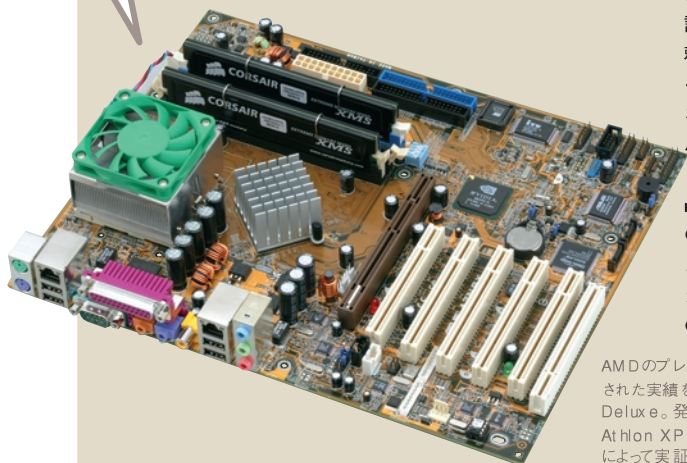
また、今年に入ってAMDは、L2キャッシュを2倍の

512KBに倍増したBartonコアのAthlon XPをデビューさせるが、ASUSのマザーボードは、こちらにも発表前の段階で対応を完了。Bartonコアの対応リストには1年近くも前にリリースしたA7V333(PCB 1.03以降)が含まれていることなども、同社の技術力を示すものといえるだろう。

今後の展開としては、ClawHammerの開発コードネームで呼ばれていたAthlon 64の発表というビッグイベントが9月に控えている。

もっとも、このAthlon 64が実際にデリバリーされるタイミングやボリュームなどにはまだ不透明なところがあり、まだ当分の間はAthlon XP/3000+を筆頭とするBartonコアのAthlon XPが主力製品として活躍するとみられる。今年半ばには、最高グレードを更新するAthlon XP/3200+が、FSBクロックを400MHzに拡大してのリリースも噂されている。チップセットベンダーのNVIDIA, VIA, SiSからは、それぞれ対応チップセットとしてCrush18D(開発コードネーム), Apollo KT600, SiS748といった製品が用意される。これらのチップセットを搭載したASUSの製品の登場にも期待したい。

## プレス向け評価キットに採用される ASUS製マザーボード



最近のCPUの性能はプラットフォーム(≒マザーボード)とは切っても切り離せない関係にある。そのためか、雑誌などのメディアがCPUの評価を行うさいにも、しばしば「評価キット」というものが用意されることがある。その内容にはCPUだけでなくマザーボードとメモリ、ときにはビデオカードやHDDも含まれる。リファレンスシステムというからには、当然AMD自らが動作および性能の検証を行なっている。その採用にあたっては、動作時の安定性や信頼性が極めて優れていることが絶対条件となろう。テスト中にハードウェアが原因でトラブルでも発生してしまえば、多方面に重大な支障をきたすだけでなく、自社製品の評判を落とすリスクもはらんでいるからだ。

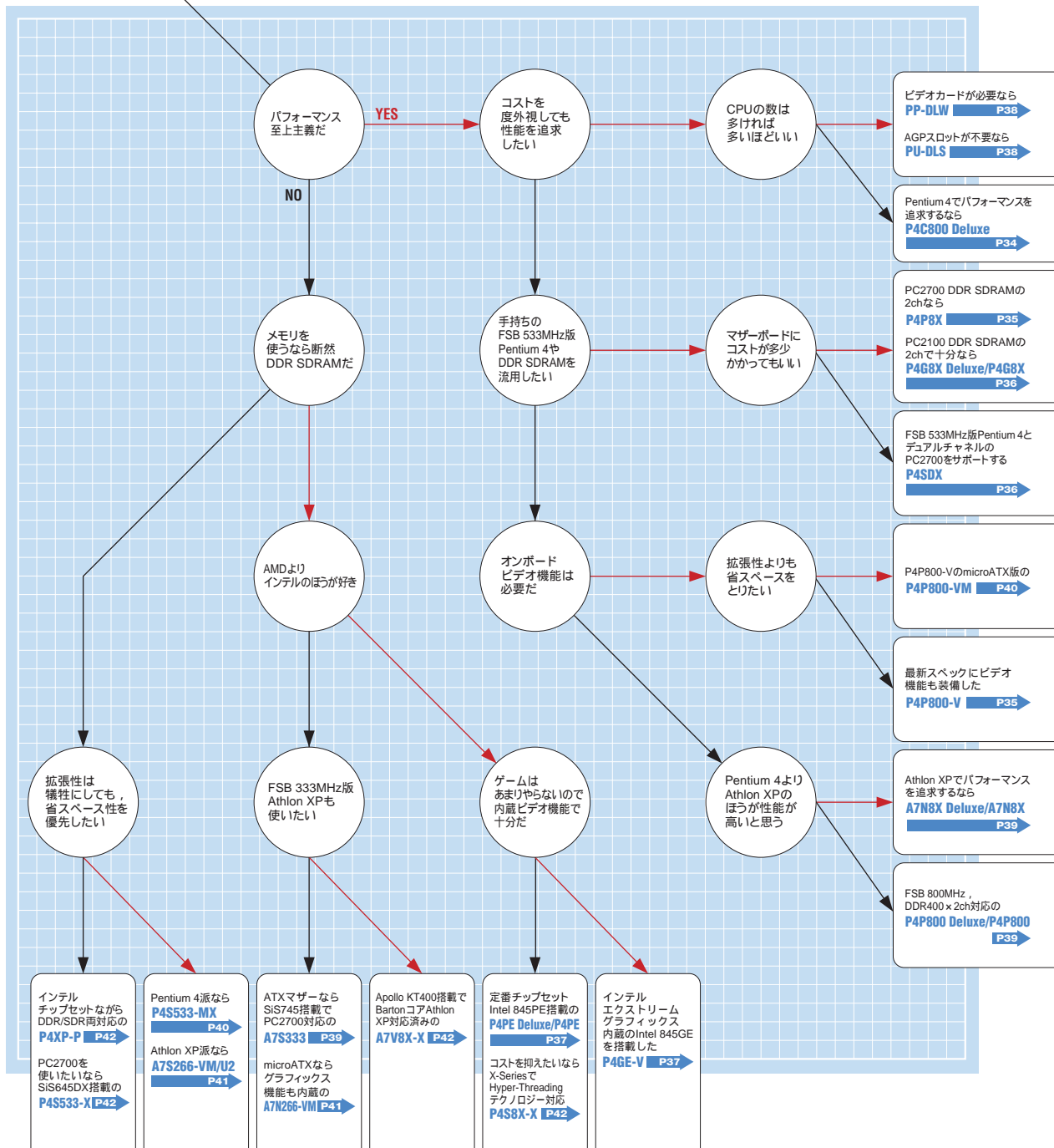
さらにこのA7N8X Deluxeについていえば、採用された当時はnForce2-STチップセットがまだ市場流通を開始する何週間も前の段階での、まさしく最新の製品であったことに驚かされたものだ。このことは、最新のテクノロジートレンドをいち早く取り入れつつ、かつ安定性と性能両面に優れた製品を製造し続けているASUSの技術力が大きな信頼を得ていることの表われといえるだろう。

AMDのプレス向け評価キットに採用された実績をもつASUSのA7N8X Deluxe。発売前にBartonコアのAthlon XP対応がAMD自身の手によって実証されている

# ASUS 製品カタログ

ここでは ASUS の最新製品を紹介していきます。主力製品のマザーボードをはじめ、ビデオカード、光学ドライブ、ベアボーン、ノートPC、無線LAN、PDAと、日本で扱う製品ジャンルを網羅しているのでぜひ購入時の参考にしてください。バリエーションが多く、製品選びで悩みどころとなるマザーボードについてはフローチャートを用意しました。質問に Yes/No で答えていくだけで、あなたにぴったりのマザーボードがきっと見つかるはずですよ。

START →



## Pundit

Pentium4 PC2700 USB 2.0 IEEE 1394 10GBASE-TX LAN

●実勢価格：3万4800円前後

### スタイリッシュなオールインワンペアボーン

「Pundit」は高性能なオールインワンペアボーンです。強力なマシンパワーとスタイリッシュな省スペースデザイン、そして驚きの静音性。まさにPunditはすべてを兼ね備えた夢のマシンです。

映像に音楽に、余裕のパワーを発揮するFSB 533 MHz版 Pentium 4とPC2700 DDR SDRAMをサポート。SDカード、MMC、スマートメディア、メモリースティックの4種類に対応したカードリーダーとPCカードスロット、IEEE 1394、S/PDIF 光出力端子を備え、マルチメディアとの連携もスムーズ。さらにDVI-D端子とテレビ出力、Dolby Digital対応5.1chサウンドで最先端のマルチメディア体験をあなたにお届けします。



サイズ	91×357×275mm(幅×奥行×高さ)
対応 CPU	Pentium 4/2.80GHzまで(FSB 533/400MHzのCPUを利用可能)
対応メモリ	PC2700/2100/1600 DDR SDRAMを2枚利用可能
ドライブベイ	5インチ×1、3.5インチシャドウ×1
拡張スロット	PCI×2(Low Profile版のみ利用可能)



## Degatto

Pentium4 PC2700 USB 2.0 IEEE 1394 10GBASE-TX LAN

●実勢価格：9万1000～11万3000円前後

### 究極のオールインワンペアボーン

デスクトップマシンのパフォーマンスと室内のどこにでも持ち運んで楽しめるポータブルさを兼ね備えた、真のデスクトップスタイルを「Degatto」は実現します。

最新のUSB 2.0に対応しながらも、パラレルポートでレガシー機器もしっかりサポート。4種類のフラッシュメモリ対応のカードリーダーとPCカードスロットを搭載し、コンパクトなボディながら拡張性は失われません。液晶ディスプレイは14.1インチと15インチの2タイプ。DVD鑑賞やゲームも迫力ある大画面で楽しめます。さらにD1は自分だけのジュークボックスにも変身。フロントパネルのコントロールボタンを使えば、OSを起動しなくても音楽CDが再生できます。

サイズ/重量	330×280×40～48mm(幅×奥行×高さ)/3.3kg
対応 CPU	Pentium 4/2.40B/2.40/2.20/2A GHz, Celeron/1.70～2GHz
対応メモリ	PC2700/2100/1600 DDR SDRAMを1枚利用可能(最大512MB)
HDD容量	Ultra ATA/100 対応の9.5mmHDDを最大40GBまで搭載可能
対応光学ドライブ	CD-ROM(24倍速)、DV D-ROM(8倍速)、DV D-ROM & CD-R Wコンボ(8/4/24倍速)



# Terminator P4 533 シリーズ

Pentium4 PC2700 USB 2.0 100BASE-TX LAN

- 実勢価格:2万3000円前後 (Terminator P4 533)
- 実勢価格:2万7500円前後 (Terminator P4 533A)

## 柔軟なカスタマイズが可能なベアボーン

高性能パーツによる柔軟なカスタマイズができる、ASUSの技術の粋を尽くした「Terminator P4 533」シリーズは、オフィスにも家庭にもマッチする万能マシンです。

Pentium 4のFSB 533/400MHz版はもちろん、Pentium 4/3.06GHzにも対応しています。3Dゲームやマルチメディアの再生もこなす内蔵グラフィックをすべてのラインナップで搭載したほか、AGPスロット搭載モデルのTerminator P4 533Aでは高性能ビデオカードの増設も可能。オプションのヒートパイプ型CPUクーラーを使えば、静音性をさらに向上できます。

Terminator P4 533シリーズはあなたの悩みをすべて解決するベアボーンとなるでしょう。



サイズ	181.2×275×300.6mm(幅×奥行き×高さ)
対応CPU	Pentium 4/3.06GHzまで(FSB 533/400MHzのCPUを利用可能)
対応メモリ	PC2700/2100/1600 DDR SDRAMを2枚利用可能(最大2GB)
ドライブベイ	5インチ×2, 3.5インチ×1, 3.5インチシャドウ×1
拡張スロット	AGP, PCI×1 (Terminator P4 533はPCI×2)

※製品に光学ドライブは付属しません。



# Terminator K7 DDR

AthlonXP PC2100 USB 2.0 100BASE-TX LAN

- 実勢価格:2万円前後

## Athlon XPで自由な構成を実現

ハイクオリティなコンポーネントと自由なパーツ構成、スタイリッシュで簡単な組み立てが可能なケース。「Terminator K7 DDR」は、ASUSの新技术と品質へのこだわり裏打ちされた性能と、コストパフォーマンスを両立させる夢のベアボーンです。

Athlon XPに対応し、内蔵3Dグラフィックス、サウンド、LANなどの必要な機能をすべて備えたオールインワンタイプ。初心者向けマシンやサブマシンとしてコストをかけずに手軽に組み立てられます。

二つの5インチベイ、AGPスロット、PCIスロットを装備しているので、自分好みにカスタマイズして納得のいくオリジナルマシンを作れます。

サイズ	181.2×275×300.6mm(幅×奥行き×高さ)
対応CPU	Athlon XP(FSB 266/200MHz)/Athlon/Duron
対応メモリ	PC2100/1600 DDR SDRAMを2枚利用可能(最大1GB)
ドライブベイ	5インチ×2, 3.5インチ×1, 3.5インチシャドウ×1
拡張スロット	AGP, PCI×1

※製品に光学ドライブは付属しません。



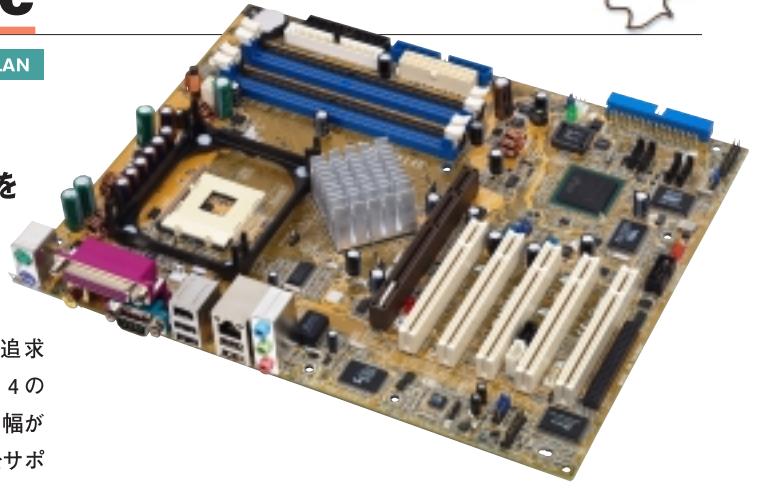
## P4C800 Deluxe

ATX mPGA478 Intel 875P DDR 400 GbLAN

●実勢価格：2万9000円前後

### 最速を求めるあなたへ衝撃のパフォーマンスを

最新のFSB 800MHz版Pentium 4、パフォーマンスを極めるIntel 875Pチップセット、そしてASUSの技術力。すべてを兼ね備えた「P4C800 Deluxe」は、究極のパフォーマンスを追求するあなたのためのマザーボードです。Pentium 4のHyper-Threadingテクノロジー、そして最大帯域幅が6.4GB/secにも達するデュアルチャネルDDR400をサポート。Intel PAT(Performance Acceleration Technology)で、最大5~10%のパフォーマンス向上が期待できます。また、最新のオンボードデバイスも豊富にサポート。Serial ATA, ギガビットLAN, マルチRAID, IEEE 1394コントローラも搭載しています。



対応 CPU	mPGA478版Pentium 4(FSB 800/533/400MHz) および Celeron
対応メモリ/最大容量	DDR 400, PC2700/2100 DDR S DRAMを最大4GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP Pro, PCI×5, ASUS WiFi Wireless LAN Connector
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0×4, IEEE 1394×1, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 1000BASE-T LAN, S/PDIF 同軸



## P4P800 Deluxe/P4P800

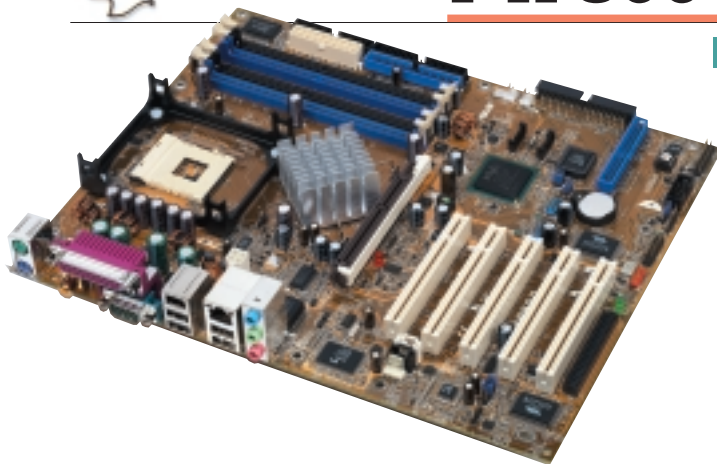
ATX mPGA478 Springdale-PE DDR 400 GbLAN

●近日発売予定

### 想像を超えるスピードの世界へ

「P4P800」シリーズは、FSB 800MHz版Pentium 4をサポートしたメインストリーム向けチップセットSpringdale-PEを搭載。Hyper-Threadingテクノロジー、デュアルチャネルDDR400メモリに対応し、ありとあらゆるタスクを高速に処理します。

Serial ATA, 高音質5.1chサウンド, AGP 8Xとバリエーションに富んだオンボード機能に加えて、「P4P800 Deluxe」では3Com製ギガビットLAN, Ultra ATA/133 RAID, IEEE 1394コントローラを完備。BIOSの日本語表示やWindows上からのBIOSアップデートが可能なASUS EZ Flash, 柔軟なオーバークロック設定を用意するなど、高いユーザビリティを実現しています。



対応 CPU	mPGA478版Pentium 4(FSB 800/533/400MHz) および Celeron
対応メモリ/最大容量	DDR 400, PC2700/2100 DDR S DRAMを最大4GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI×5, ASUS WiFi Wireless LAN Connector
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0×4, IEEE 1394×1, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 1000BASE-T LAN, S/PDIF 同軸



# P4P800-V

ATX mPGA478 Springdale-G DDR 400 GbLAN ビデオ機能

●近日発売予定

## 次世代CPU, Prescottに完全対応

「P4P800-V」はグラフィックス機能統合型のSpringdale-Gを搭載したマザーボードです。FSB 800MHz版Pentium 4およびHyper-Threadingテクノロジーも完全サポート。「P4C800 Deluxe」「P4P800」シリーズとともに次世代CPU「Prescott」にも対応するなど、パフォーマンスにこだわるパワーユーザーも満足できる製品です。豊富なオンボード機能により、どんな用途にもオールマイティに対応します。強力なSpringdale-Gの内蔵グラフィック機能に加え、AGP 8X対応のAGPスロットも利用可能。さらにSerial ATA RAID機能、3Com製ギガビットLANを採用しているため、高品質なPCライフを楽しめます。



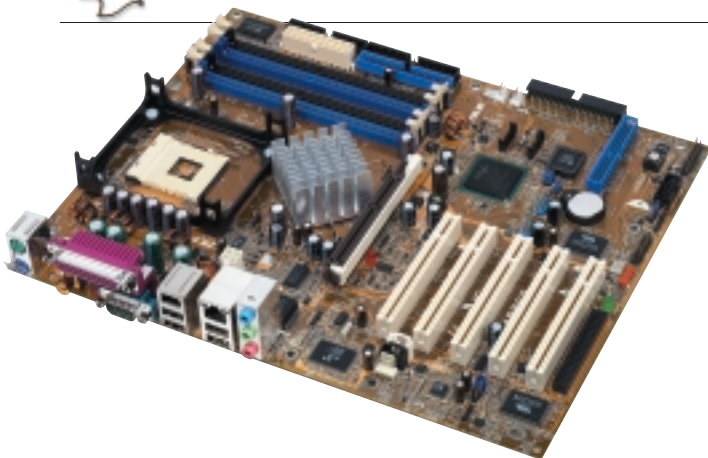
対応CPU	mPGA478版Pentium 4(FSB 800/533/400MHz)およびCeleron
対応メモリ/最大容量	DDR 400, PC2700/2100 DDR SDRAMを最大4GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI X5, ASUS WiFi Wireless LAN Connector
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0 X 4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 1000BASE-T LAN, VGA



# P4P8X

ATX mPGA478 Springdale-P PC2700

●近日発売予定



## 進化したパフォーマンスと機能性

P4P8Xは、最新チップセット「Springdale-P」を搭載し、FSB533MHz、デュアルチャネルDDR333メモリ、AGP 8Xをサポートするなど現行のPentium 4システムにさらに強力なパフォーマンスを提供します。また、Serial ATA インタフェースとギガビットLANコントローラを採用、従来のシステムでボトルネックと指摘されてきたハードディスクへのアクセス速度を飛躍的に向上させています。

豊富な設定を用意して、マニアックなチューニングにも柔軟に対応。C.P.R.搭載でオーバークロック失敗時にも自動的にデフォルトのBIOS設定がロードされるため、手軽にチューニングを楽しめます。

対応CPU	mPGA478版Pentium 4(FSB 533/400MHz)およびCeleron
対応メモリ/最大容量	PC2700/2100 DDR SDRAMを最大4GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI X5, ASUS WiFi Wireless LAN Connector
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0 X 4, IEEE 1394 X1, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 1000BASE-T LAN



## P4G8X Deluxe/P4G8X

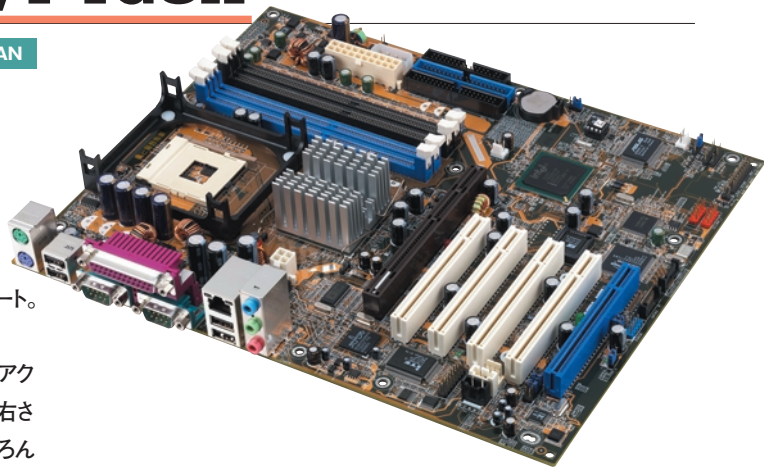
ATX mPGA478 Intel E7205 PC2100 GbLAN

- 実勢価格：2万7800円前後(P4G8X Deluxe)
- 実勢価格：2万4800円前後(P4G8X)

### 定番の高性能 Intel E7205 マザー

今もっとも話題のIntel E7205チップセットを搭載した「P4G8X」シリーズは、Hyper-ThreadingテクノロジーとFSB 533MHz版Pentium 4をサポート。まったく新しいマシンパワーの世界を体感できます。

最大4.2GB/secのデュアルチャネルDDRメモリアクセスの採用により、とりわけメモリの性能に大きく左右されるアプリケーションでパフォーマンスを発揮。もちろんAGP 8X, Serial ATA, Broadcom製ギガビットLAN (Deluxeのみ)といった最先端のオンボードデバイスを業界に先駆けて搭載。クロックアップ失敗時に自動的にCMOSクリアが実行されるC.P.R.技術を搭載するなど、ユーザビリティも配慮しています。



対応CPU	mPGA478版Pentium 4(FSB 533/400MHz)およびCeleron
対応メモリ/最大容量	PC2100/1600 DDR SDRAMを最大4GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI×5
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル×2, USB 2.0×4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 100BASE-T LAN※

※Deluxeモデルのみ、標準モデルは100BASE-TX LAN

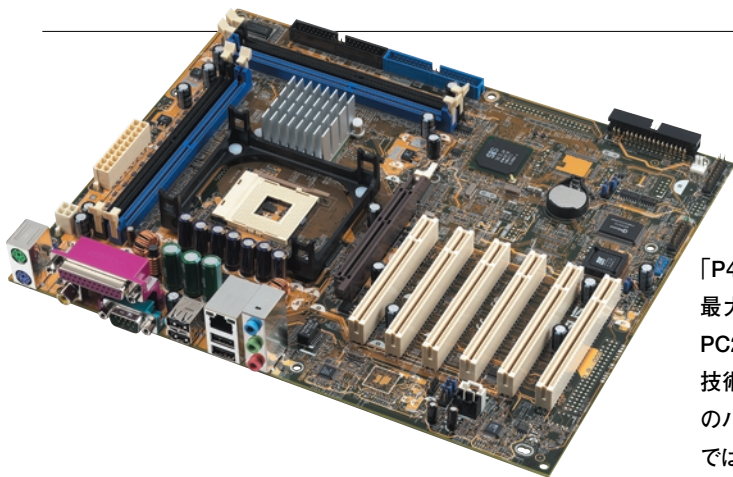
## P4SDX

ATX mPGA478 SiS655 PC2700

- 実勢価格：1万5800円前後

### PC2700のデュアルチャネルに対応

Pentium 4対応のmPGA478マザーボード「P4SDX」にはSiS655チップセットが搭載されています。最大帯域幅が5.4GB/secに達するデュアルチャネルPC2700 DDR SDRAMやAGP 8Xなど、業界最先端の技術をサポート。新テクノロジー満載のP4SDXは、抜群のパフォーマンスとマシンバリューを提供します。SiS 655では、FSB 533MHz版Pentium 4に対応。また、従来のAGP 4Xの倍の速度である最大帯域幅2.1GB/secの次世代グラフィックインタフェース、AGP 8Xを採用して、さらに高画質なグラフィック機能を実現しました。メモリ性能に大きく依存するアプリケーションではデュアルチャネルメモリアクセスによる高速な処理が行えます。



対応CPU	mPGA478版Pentium 4(FSB 533/400MHz)およびCeleron
対応メモリ/最大容量	PC2700/2100/1600 DDR SDRAMを最大4GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI×6
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0×4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 100BASE-TX LAN, S/PDIF同軸

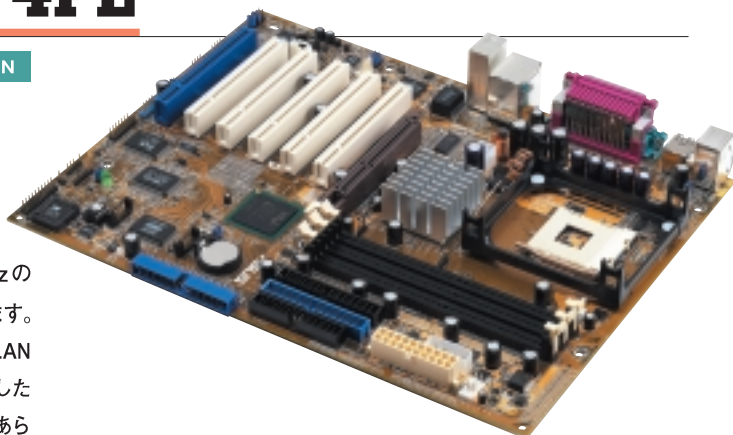
# P4PE Deluxe/P4PE

ATX mPGA478 Intel 845 PE PC2700 GbLAN

- 実勢価格:1万9000円前後(P4PE Deluxe)
- 実勢価格:1万3000円前後(P4PE)

## 納得できるパフォーマンスの定番マザー

mPGA478 マザーボード「P4PE」は、FSB 533MHz 版 Pentium 4 に対応、Pentium 4/3.06GHz の Hyper-Threading テクノロジーもサポートしています。PC2700 DDR SDRAM, Serial ATA やギガビット LAN (Deluxe のみ) といった最先端の技術をサポートした Intel 845PE チップセット搭載の P4PE は、ありとあらゆるタスクをこなすハイパフォーマンス、ハイバリューなマシンに最適です。BIOS アップグレード中の事故やウイルスによる BIOS 破壊時も、フロッピーディスクからの BIOS 復旧が可能な CrashFree BIOS, オーバークロック失敗時に自動的に CMOS 設定のクリアを行う C.P.R. 技術などによる、高いユーザビリティも実現しています。



対応 CPU	mPGA478 版 Pentium 4 (FSB 533/400MHz) および Celeron
対応メモリ/最大容量	PC2700/2100/1600 DDR SDRAM を最大 2GB まで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI × 6
I/O パネル インタフェース	PS/2 (キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0 × 4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 1000BASE-TX LAN ※

※ Deluxe モデルのみ、標準モデルは 100BASE-TX LAN

# P4GE-V

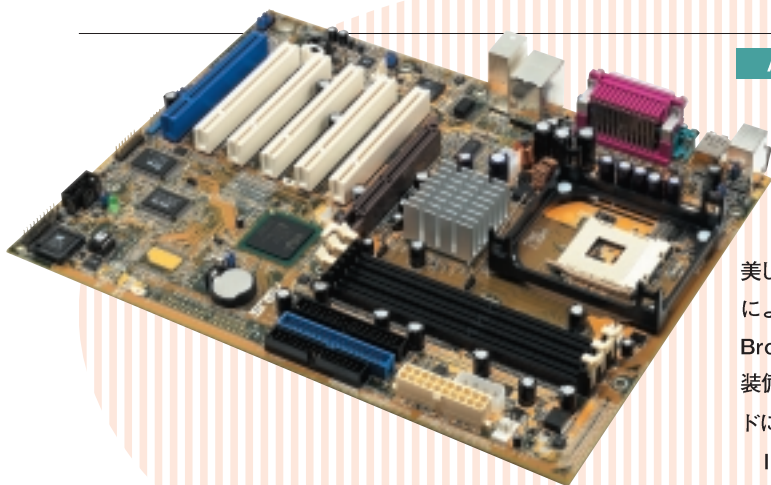
ATX mPGA478 Intel 845 GE Intel 845 GE ビデオ機能

- 実勢価格:1万5000円前後

## パワフルなオールインワンマザー

「P4GE-V」は、Intel 845GE チップセットによる美しい内蔵グラフィック機能、ADI Sound Max チップによる高音質な 5.1ch サウンド機能を備えています。Broadcom の 10BASE-T/100BASE-TX 対応 LAN も装備し、ゲームに、ホビーに、オフィスにとオールラウンドに使えるハイパフォーマンスマシンを作れます。

Intel 845GE チップセットは、FSB 533MHz 版 Pentium 4/3.06GHz の Hyper-Threading テクノロジーや PC2700 DDR SDRAM をサポート。内蔵グラフィックコアによる 3D グラフィックス機能を搭載しています。また AGP スロットを搭載し、ビデオカードによるグラフィックス機能の強化も可能です。



対応 CPU	mPGA478 版 Pentium 4 (FSB 533/400MHz) および Celeron
対応メモリ/最大容量	PC2700/2100/1600 DDR SDRAM を最大 2GB まで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI × 6
I/O パネル インタフェース	PS/2 (キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0 × 4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 100BASE-TX LAN, VGA

### PP-DLW

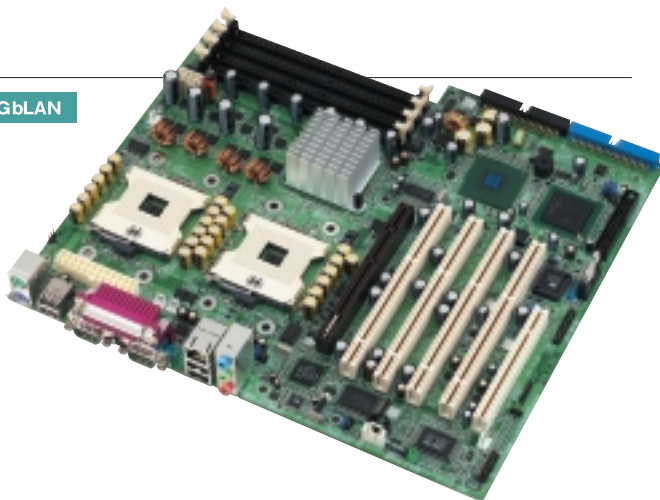
Xeon ATX PGA6 04/603 Intel E75 05 PC2 100 GbLAN

●実勢価格：8万円前後

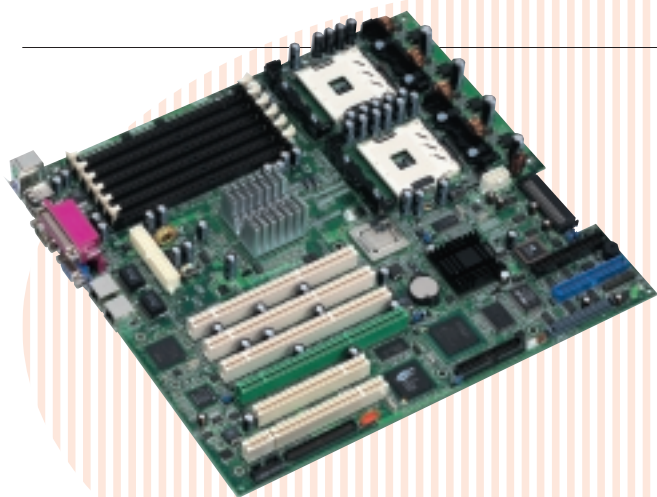
#### ワークステーション向け Dual Xeon マザー

「PP-DLW」は、最高クロック3.06GHzまでのXeonでデュアル動作が可能なマザーボードです。従来のFSB 400MHz版に加えて、FSB 533MHz版Xeonもサポート。ノースブリッジに最新のワークステーション向けハイパフォーマンスチップセットIntel E7505, サウスブリッジにICH4, PCI-XブリッジにはIntel P64H2チップを採用。AGP Proスロット(8X対応)も装備し、高性能かつ信頼性の高いワークステーション作成をサポートします。

メモリは余裕の大容量、最大8GBまでのRegisteredおよびUnbuffered PC2100 DDR SDRAMを搭載可能。Intel 82540チップを利用したギガビットLANも装備しています。



対応 CPU	Xeon (FSB 533MHz/400MHz)
対応メモリ/最大容量	PC2100 DDR SDRAM (ECC)を最大8GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, 64ビットPCI-X×4(66MHz×3, 133MHz×1), 32ビットPCI×1
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル×2, USB 2.0×4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 1000BA SE-T LAN



### PU-DLS

Extended ATX PGA6 04/603 Intel E75 01 PC2 100 GbLAN  
Xeon ビデオ機能

●実勢価格：10万8000円前後

#### 高性能サーバー向け Dual Xeon マザー

「PU-DLS」は、最高クロックのFSB 533MHz版3.06GHzまでサポートしたデュアルXeon対応のマザーボードです。ノースブリッジにIntel E7501, サウスブリッジにICH3-S, さらにPCI-XブリッジにP64H2チップを搭載することで、従来の32ビットPCIに加えて64ビットのPCI拡張カードを利用できます。6本のメモリスロットにECC付きRegistered PC2100 DDR SDRAMを最大12GBまで装着可能。Intel 82544 PCI-XギガビットLANとIntel 82540ギガビットLAN, Adaptec AIC-7902デュアルチャネルUltra 320 SCSIコントローラを搭載し、ハイエンドサーバーマシンとしての本格運用に十分に耐えられるスペックを提供しています。

対応 CPU	Xeon (FSB 533MHz/400MHz)
対応メモリ/最大容量	PC2100 DDR SDRAM (ECC)を最大12GBまで搭載可能
拡張スロット	64ビットPCI-X(100MHz)×4, 32ビットPCI×1
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 1.1×2, 1000BA SE-T LAN×2, VGA



# A7N8X Deluxe/A7N8X

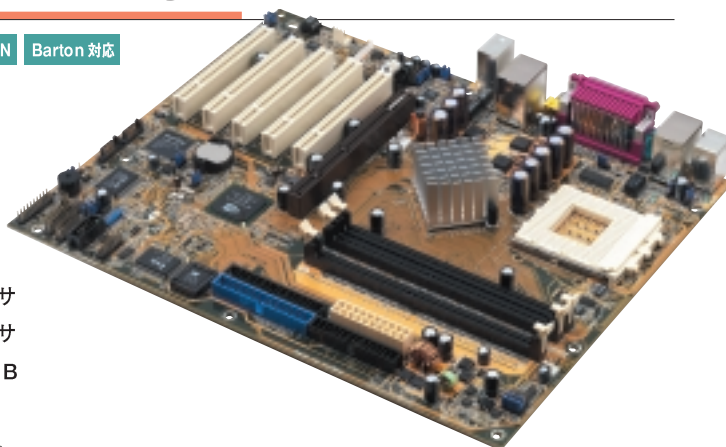
ATX Socket A nForce2-ST DDR400 デュアルLAN Barton 対応

- 価格：1万8000円前後(A7N8X Deluxe)
- 価格：1万4000円前後(A7N8X)

## デジタルマルチメディアの架け橋

最先端の技術を結集して作り上げた「A7N8X Deluxe」は、これまでにないマルチメディア体験を実現します。従来の2倍の帯域幅を持つAGP 8XをサポートしたAGP Proスロット、5.1ch Dolby Digitalサウンドによる素晴らしい高音質、IEEE 1394とUSB 2.0の両インタフェースを備えます。

また、最新のBartonコアAthlon XPに対応し、最大帯域幅6.4GB/secのデュアルチャネルDDR400メモリアクセスと、Serial ATA インタフェースでシステム全体のパフォーマンスを大きく高め、さらにLANを2基搭載してネットワーク機能をより充実させました。CPU 焼損防止機能(C.O.P.)も搭載しています。



対応CPU	Athlon XP(FSB 333/266MHz)/Athlon/Duron
対応メモリ/最大容量	DDR400, PC2700/2100/1600 DDR SDRAMを最大3GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP Pro, PCI×5
I/Oパネルインタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0×4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 100BASE-TX LAN×2

# A7S333

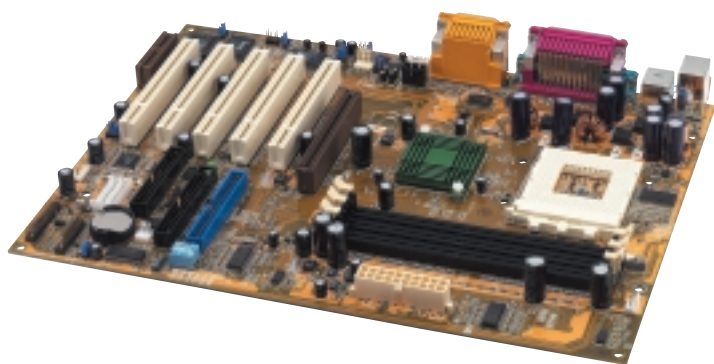
ATX Socket A SiS745 PC2700 LAN

- 実勢価格：9000円前後

## コストパフォーマンスと機能性を両立

SiS745チップセット搭載の「A7S333」は、Socket A対応のマザーボード。広帯域幅で高速データ転送が可能なPC2700 DDR SDRAMをサポートしています。SiS独自のMuTIOLテクノロジーでチップセット間の帯域幅を1.2GB/secまで広げることによって、より高速なデータ転送が行えます。

さらに5.1ch Dolby Digitalサウンド、S/PDIF デジタル入出力端子などオプション機能も豊富に取りそろえています。CPUが熱によるダメージを受ける温度まで上昇する前に、自動的にシステムをシャットダウンして熱破壊を防ぐASUS C.O.P.(CPU Overheating Protection)を導入しています。



対応CPU	Athlon XP(FSB 266/200MHz)/Athlon/Duron
対応メモリ/最大容量	PC2700/2100/1600 DDR SDRAMを最大3GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI×5
I/Oパネルインタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル×2, USB 1.1×2, マイク入力/ライン入力/ライン出力, ゲームポート

### P4P800-VM

microATX mPGA478 Springdale-G DDR 400 ビデオ機能

●近日発売予定

#### Prescott 時代のベストソリューション

「P4P800-VM」は、FSB 800MHz版Pentium 4に対応したSpringdale-Gを搭載。次世代Pentium 4のPrescott(プレスコット)に対応可能なmicroATXマザーボードです。デュアルチャンネルDDR400, Hyper-Threadingテクノロジーにより軽快なパフォーマンスを約束します。次世代グラフィックコア「Intel Extreme Graphic 2」を内蔵し、美しい3Dグラフィックを実現します。

従来のAGP 4Xの2倍の帯域幅を持つAGP 8X, Serial ATA, USB 2.0, S/PDIFなど、最新のI/Oインタフェースを搭載。P4P800-VMはあなたが望む全ての機能が凝縮されたオールインワンマザーボードです。



対応 CPU	mPGA478版Pentium 4(FSB 800/533/400MHz)およびCeleron
対応メモリ/最大容量	DDR400, PC2700/2100 DDR SDRAMを最大4GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI×3
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0×4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 100BASE-TX LAN, VGA

### P4S533-MX

microATX mPGA478 SiS651 DDR/SDR ビデオ機能

●実勢価格: 1万1000円前後

#### システムインテグレーターに最適

SiS651搭載の「P4S533-MX」は、FSB 533MHz版Pentium 4に対応し、パワフルな内蔵グラフィック機能が利用できます。さらにPC133/PC100 SDRAMとPC2700/2100 DDR SDRAMの両方をサポートし、柔軟かつ強力そして自由度の高いマシン構成が行えます。オーバークロック失敗時に自動的にCMOS設定がクリアされるC.P.R.(CPU Parameter Recall), BIOSが起動しなくなったようなトラブル時にフロッピーディスクからの復旧が可能なCrashFree BIOS, Windows上から簡単にBIOSアップデートが可能なEZ Flashなど強力なユーティリティを完備し、5.1chサウンド, 10BASE-T/100BASE-TX LANとオンボード機能も充実しています。



対応 CPU	mPGA478版Pentium 4(FSB 533/400MHz)およびCeleron
対応メモリ/最大容量	PC2700/2100/1600 DDR SDRAM, PC133/PC100 SDRAM(各2GB)
拡張スロット	AGP, PCI×3
I/Oパネル インタフェース	PS/2(キーボード/マウス), パラレル, シリアル, USB 2.0×4, マイク入力/ライン入力/ライン出力, 100BASE-TX LAN, VGA

# A7S266-VM/U2

microATX SocketA SiS 740 DDR/SDR ビデオ機能

●実勢価格：9000円前後

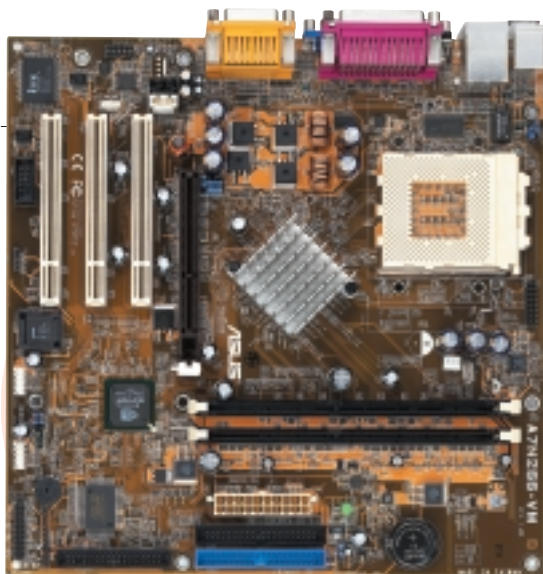
## A7S266-VMが待望のUSB 2.0をサポート!

SiS 740チップセット搭載の定番microATXマザーボード「A7S266-VM」がThroughbredコアのAthlon XPにも対応し、新たにSiS 962Lを採用して生まれ変わりました。内蔵グラフィック機能やSDR SDRAMとDDR DDRAMの両方をサポートする柔軟性はそのままに、待望のUSB 2.0インターフェースを追加。オプションでC-Media 4chサウンド機能、S/PDIF出力端子、LANも用意してあります。

また、アップデート失敗やウイルス感染によるBIOS破壊時に付属のユーティリティCDからBIOSをリカバリーできるASUS CrashFree BIOS 2ユーティリティを同梱しています。自由なシステム構成を追い求めるユーザーに最適な1枚です。



対応CPU	Athlon XP(FSB 266/200MHz)/Athlon/Duron
対応メモリ/最大容量	PC2100/1600 DDR SDRAM, PC133/PC100 SDRAM (各2GB)
拡張スロット	PCI×4
I/Oパネル インターフェース	PS2(キーボード/マウス)、パラレル、シリアル×2、USB 2.0×2、マイク入力/ライン入力/ライン出力、ゲームポート、100BASE-TX LAN、VGA



# A7N266-VM

microATX SocketA nForce 22.0-D PC2100 ビデオ機能

●実勢価格：9000円前後

## 自作マニアにお勧めできる完全無欠の1枚

「A7N266-VM」は、パフォーマンスを犠牲にすることなくあなたが求めるすべての機能が凝縮された、業界初のmicroATXマザーボードです。nForceチップセットによるGeForce2クオリティのパワフルな内蔵3Dグラフィック機能、5.1ch Dolby Digital サウンド、そしてLAN。これらすべてを搭載したA7N266-VMは、抜群のコストパフォーマンスを誇るオールインワンマザーボードです。

FSB 266MHz版Athlon XP、最大帯域幅 4.2GB/secに達するデュアルチャネルメモリアccessをサポートし、ローコストながらも高いパフォーマンスを実現。さらにオプションのAdd-inカードを利用すればテレビ出力とDVI出力もできます。

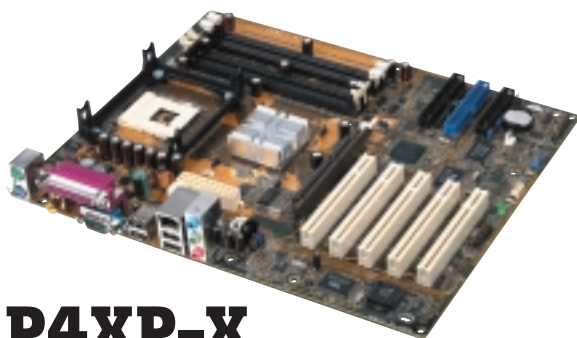
対応CPU	Athlon XP(FSB 266/200MHz)/Athlon/Duron
対応メモリ/最大容量	PC2100/1600 DDR SDRAMを最大1GBまで搭載可能
拡張スロット	AGP, PCI×3
I/Oパネル インターフェース	PS2(キーボード/マウス)、パラレル、シリアル×2、USB 1.1×2、マイク入力/ライン入力/ライン出力、ゲームポート、100BASE-TX LAN、VGA



## X-Series

求めていたものがここにある

X-Seriesは、日本語マニュアル、使用頻度の少ない機能を若干省略して生産コストを抑えて低価格を実現したシリーズです。低価格にはなっていますが、ASUSのポリシーである高品質、長寿命はそのまま継承されています。

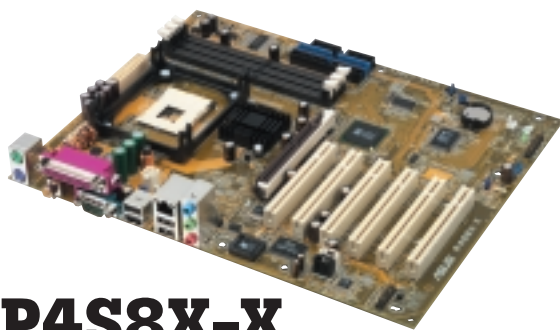


### P4XP-X

Intel 845 D DDR/SDR USB 2.0 LAN

●実勢価格:9000円前後

「P4XP-X」は、Intel 845 Bステップを搭載するPentium 4用マザーボードです。SDR SDRAMとDDR SDRAMの両方をサポートし、USB 2.0、5.1chサウンド、S/PDIF出力端子、10BASE-T/100BASE-TX LANなどを搭載しています。



### P4S8X-X

SiS648 PC2700 USB 2.0 LAN

●実勢価格:1万1000円前後

Hyper-Threadingテクノロジー対応のPentium 4/3.06GHz、AGP 8X、S/PDIF出力端子、USB 2.0といった最先端の技術にすべて対応。SiS648搭載の「P4S8X-X」は性能とパフォーマンスが融合したマザーボードです。



### P4S533-X

SiS645DX DDR/SDR USB 2.0 LAN

●実勢価格:9000円前後

一貫したX-Seriesの哲学に基づいて作られた「P4S533-X」は、DDR SDRAMとSDR SDRAM両方を装着可能でありながら、最先端のHyper-Threadingテクノロジーをサポート。高いパフォーマンスと性能を実現しました。



### A7V8X-X

Apollo KT 400 DDR 400 USB 2.0 LAN

●実勢価格:1万円前後

業界を先取りするテクノロジーを結集した「A7V8X-X」は、高いパフォーマンスを秘めたSocketAマザーボードです。BartonコアのFSB 333MHz版Athlon XP、DDR 400、S/PDIF出力端子を搭載して満足できる性能を提供します。

# ASUS Unique Features

## ASUS 独自機能

**A**SUSのマザーボードは、PCライフをバックアップするために、さまざまな独自機能を用意しています。日本語を含む多言語表示対応BIOSをはじめ、起動ディスクなしで簡単にBIOSを更新してシステムを最新の状態に保

ったり、ファン回転数を調節して静音性を高めたりして、PCの実用性をさらに高めます。また、POSTシグナルによるトラブルシューティング、BIOS損傷時のリカバリー、CPUの熱破壊を防ぐ機能など、トラブル時の対策も万全です。



### AI Technology

サウンド端子に差し込まれたプラグの種類を自動判別する「AI Audio」、自動オーバークロック機能の「AI Overclocking」、LANケーブルの診断を行う「AI NET」、そして「CrashFree BIOS 2」「ASUS Q-Fan Technology」「ASUS POST Reporter」の機能を合わせた「AI BIOS」。これら四つの機能を持つのがAI Technologyです。



### CrashFree BIOS 2

製品同梱のサポートCDを入れて、光学ドライブで再起動するだけで簡単にBIOSのリカバリーが行えます。ブータブル光学ドライブがない場合でも、シンプルステップのオートリカバリー作業に従っていけばすぐに復旧可能です。いままでの「BIOSの損傷＝製品寿命の終わり」という常識を打ち破る画期的な機能です。



### ASUS Q-Fan Technology

飛躍的に伸び続けるCPUのパフォーマンスとともに、CPUファンの騒音に悩まされるユーザー数が増加しています。システムの負荷に応じてCPUファンの回転数を自動調整する「ASUS Q-Fan Technology」は、システムの静音性を高めます。熱暴走のリスクを負うことなく、最小限の騒音で作業を行えます。



### Multi-Language BIOS

ASUSのマザーボードでは、これまで主流となっていた英語メニューのBIOS画面表示だけでなく、日本語をはじめとするニーズの高い他言語への完全ローカライズを行っています。英語表示だけでは理解しづらかったシステム関連の設定も日本語で簡単に理解でき、いっそうBIOS設定が行いやすくなります。



### C.P.R. (CPU Parameter Recall)

オーバークロックで無理な設定をして、システムが起動不能になるたびにケースを開けて手動でCMOSをクリアするのが面倒と思っただけではありませんか？「C.P.R. (CPU Parameter Recall)」機能は、CMOSをクリアしなくても、システムを再起動するだけで自動的にデフォルトのBIOS設定に戻せます。



### ASUS EZ Flash

BIOSのアップデート作業が、かつてないほど簡単にシンプルになりました。BIOS内に搭載された「ASUS EZ Flash」を使えば、起動時に[Alt]+[F2]キーを押すだけでBIOSアップデートが行えます。もうBIOSアップデートの前にブートディスクを用意して、DOSを起動する必要はないのです。



### ASUS POST Reporter

「ASUS POST Reporter」は、POST (Power On Startup Test)時のエラー内容を音声で知らせる機能です。システムの状態を把握し、正確かつ迅速なトラブルシューティングができます。マザーボードに同梱の「Winbond Voice Editor」ユーティリティで、音声メッセージを自由にカスタマイズすることも可能です。



### ASUS MyLogo 2

あじけない起動時の画面に飽き飽きしていませんか？「ASUS MyLogo 2」では、「ASUS My Logo」では最大16色だったカスタマイズ画面が最大256色になりました。スタートアップ画面に自分のお気に入りの写真やイラストを表示することが可能です。PCライフがさらに心浮き立つものになるでしょう。

### V9900 シリーズ

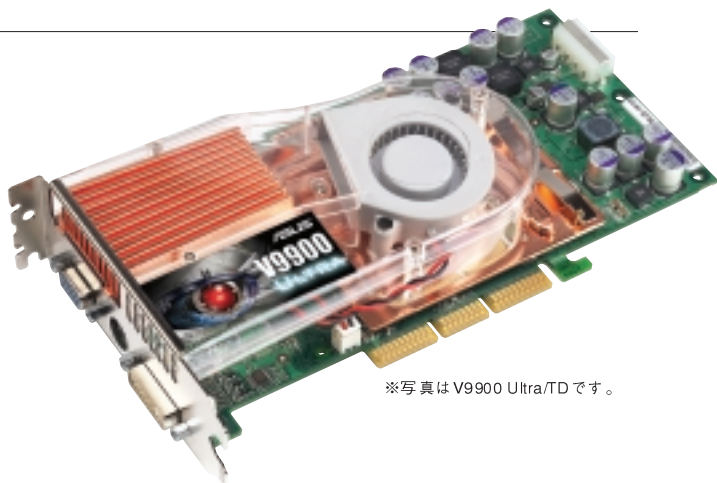
AGP 8X GPU 500MHz メモリ1GHz DDR2 128MB RAMDAC 400MHz

- 実勢価格：6万円前後 (V9900 Ultra/TD)
- 実勢価格：5万円前後 (V9900TD)

#### NVIDIA の最高峰 GPU 搭載ビデオカード

世界最高のパフォーマンスを誇るGPU、「GeForce FX 5800 Ultra/5800」を搭載。新しく生まれ変わったCineFXエンジンが、グラフィック史上類を見ない華麗なビジュアルエフェクトを実現しました。

ビデオメモリへの負荷を低減してパフォーマンスを向上させる第3世代「Lightspeed Memory Architecture」だけでなく、AGP 8Xと現在最速のDDR2を採用しています。また、DirectX 9.0とOpenGL 1.4を完全サポート。最新のグラフィックアプリケーションや3Dゲームでも高い威力を発揮します。「V9900」シリーズのパフォーマンスは最大3X geometryに達し、真のパワーを追求するパワーユーザーに最も適したビデオカードです。



※写真は V9900 Ultra/TD です。

コネクタ	D-Sub15ピン, テレビ出力, DVI-I
ビデオメモリ容量	D DR2 128MB
RAMDAC	400MHz
リフレッシュレート	70-240Hz
最大解像度	2048 × 1536 × 8.5Hz

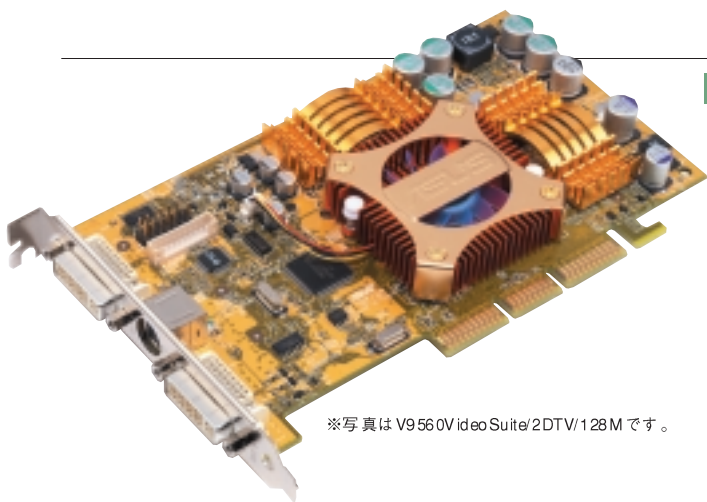
### V9560 シリーズ

AGP 8X GPU 300MHz メモリ550MHz DDR 128MB RAMDAC 400MHz

- 実勢価格：2万7000円前後 (V9560 Video Suite/2DTV/128M)
- 実勢価格：2万4000円前後 (V9560TD/128M)

#### シネマ品質のグラフィックをPCで

パワフルな3Dグラフィックを求めるユーザーのために、ASUS「V9560」シリーズは開発されました。テクノロジーを芸術の域にまで高めたNVIDIA最新の「GeForce FX 5600」グラフィックコアとCineFXエンジンを搭載し、パワーユーザーのために目の覚めるようなパフォーマンスを提供します。DirectX 9.0とOpenGL 1.4に完全対応、AGP 8X、高画質テレビ出力端子、DVI端子など豊富な機能を実現しています。さらにVideoSuiteモデルでは、システム温度によって冷却ファンの回転数を自動調整する「ASUS Smart Cooling Technology」を採用し、システム起動時、稼働時により静音性を高める設計となっています。



※写真は V9560 Video Suite/2DTV/128M です。

コネクタ	D-Sub15ピン, テレビ出力, DVI-I
ビデオメモリ容量	D DR 128MB
RAMDAC	400MHz
リフレッシュレート	60-240Hz
最大解像度	2048 × 1536 × 7.5Hz



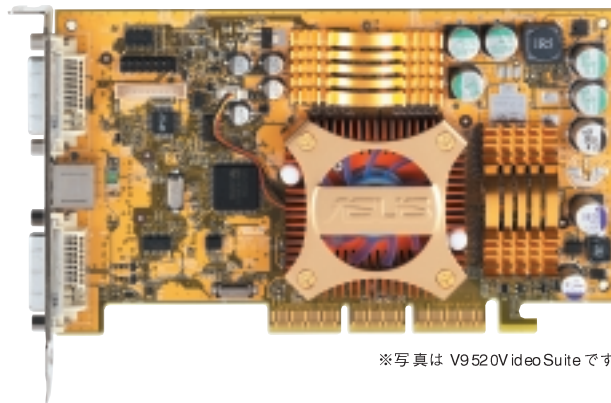
# V9520 シリーズ

AGP 8X GPU 250MHz xメモリ 400/33 3MHz DDR 128/64MB RAMDAC 40 0MHz

- 実勢価格: 1万8000円前後 (V9520 VideoSuite)
- 実勢価格: 1万5000円前後 (V9520TD/128M)
- 実勢価格: 1万2000円前後 (V9520Magic/T/128M)

## コストパフォーマンスとパワーを一つに

ASUS「V9520」シリーズは、GeForce FX 5200を搭載しています。NVIDIAのCineFXエンジンによるクリアな画質と、DirectX 9.0とOpenGL 1.4の完全サポートによるリアルタイムレンダリング。このボトムラインを守りつつも、コストパフォーマンスを意識したラインナップを取りそろえました。AGP 8X対応、ビデオメモリはDDR SDRAMを搭載。テレビ出力端子、DVI出力端子、デュアルディスプレイに対応といった、現在人気を集める3Dゲームをプレイするのに必要な機能をすべて提供しています。またVideoSuiteモデルではASUS Smart Cooling Technologyを採用し、アイドル時の騒音レベルをより低くしました。



※写真は V9520Video Suite です。

コネクタ	D-Sub15ピン、テレビ出力、DVI-I
ビデオメモリ容量	DDR/128MB
RAMDAC	400MHz
リフレッシュレート	60-240Hz
最大解像度	2048×1536×75Hz



# V9280S/TVD/N/128M

AGP 8X GPU 275MHz xメモリ600MHz DDR 128MB RAMDAC 35 0MHz

- 実勢価格: 2万7000円前後

## AGP 8X時代の新機能を凝縮

GPUにNVIDIA GeForce4 Ti4200-8Xを搭載。AGP 8XサポートとDDR SDRAMビデオメモリにより、一層のパフォーマンスを追求しています。大画面での3Dゲームやプレゼンテーションをさらに迫力あるものとする高画質テレビ出力端子搭載、デュアルディスプレイ出力をすべてのラインナップでサポートしています。



※写真は V9180Video Suite です。

# V9180 シリーズ

AGP 8X GPU 250MHz xメモリ 512MHz DDR 128 MB RAMDAC 35 0MHz

- 実勢価格: 1万4000円前後 (V9180 VideoSuite)
- 実勢価格: 1万2000円前後 (V9180/TD)
- 実勢価格: 1万円前後 (V9180 Magic)

## AGP 8X対応でさらなる描画性能を実現

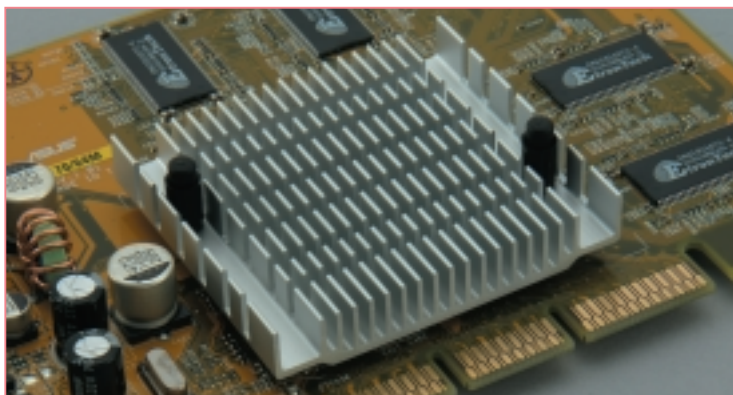
GeForce4 MX 440-8Xを搭載した「V9180」シリーズは、AGP 8XとDDR SDRAMビデオメモリをサポートしました。すべてのモデルで高画質テレビ出力端子を採用、デュアルディスプレイ出力に対応。DVI端子付きモデルも用意し、充実したグラフィック環境を楽しめます。

# 正しいビデオカードの選び方

ビデオカードを選ぶとき、ビデオチップ性能やベンチマークの数値だけに目を奪われてはいませんか？信頼性や耐久性といった製品の真面が問われる部分にも、ASUSは絶対の自信を持っています。ここではビデオカードを見極めるポイントを説明しましょう。

## 1 ファンレスを積極的に採用している ASUS 製品

ASUSのビデオカードは、可能な限りファンレス設計を行っています。ファンレス設計の利点は高い静音性と省電力性、そして冷却装置にモーターなどの駆動部品を採用しないことで万が一の冷却装置の故障によるビデオチップの熱破壊の可能性を排除し、より長い製品寿命が得られることです。ASUSは排熱効率を最大にまで高めたヒートシンクを搭載することでファンレスを実現しています。



●静音性に優れたファンレスヒートシンク ASUSの業界最先端の技術の粋を尽くして作り上げられたヒートシンクは、高い排熱効率と静音性、長時間連続稼働時でも確かな信頼性を約束します

## 2 カードのブラケット配列に配慮

ASUSのビデオカードは、出力端子のレイアウトにも細かい配慮がなされています。粗悪な製品ではコネクタが干渉して搭載された端子を利用できないといったことがあります。ASUS製品は各端子間に十分なスペースを持たせ、ケースのカード固定部分とも干渉しにくい、カード中央部に端子を配置しています。また、静電気による基盤破壊防止回路を豊富に搭載しているため、ノイズの影響を受けにくい美しい画質を楽しめます。



●ブラケットの中央部分にコネクタを集中 ケースの筐体によっては、ビデオカード上部の出力端子は筐体と干渉しがちです。ASUSのビデオカードならばゆとりのレイアウトで干渉の心配はありません

●画質のための徹底的な配慮 基盤破壊防止回路を複数搭載して、落雷などの万が一の事態にも耐えうる製品設計を行っています。また、ノイズの影響を受けにくい、ゆらぎのないクリアな画質を楽しめます



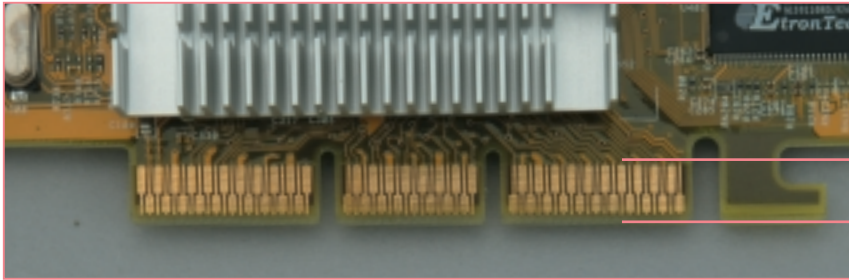
### 3

## ゴールデンフィンガーはAGP規格に準拠

ビデオカードの標準的な規格であるAGP規格では、カードエッジコネクタ部分の長さも決められています。AGP規格に準拠していないビデオカードは、製造コストを抑えるために

金色の端子(Golden Finger)部分が短く、時間の経過とともに接触不良を起こすなどの事態が考えられます。ASUSのビデオカードは、AGP規格に準拠した長さのカードエッジコ

ネクタを持ち、ほぼすべてのマザーボードとの互換性が保たれています。また、接触不良などが起こりにくく、常に最大限のパフォーマンスを得られます



●AGP規格に準拠したGolden Finger ASUSのビデオカードは、AGP規格に基づいた端子の長さのカードエッジコネクタを採用しています

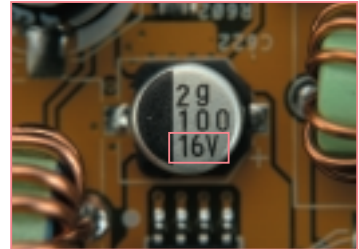
AGP Standard

### 4

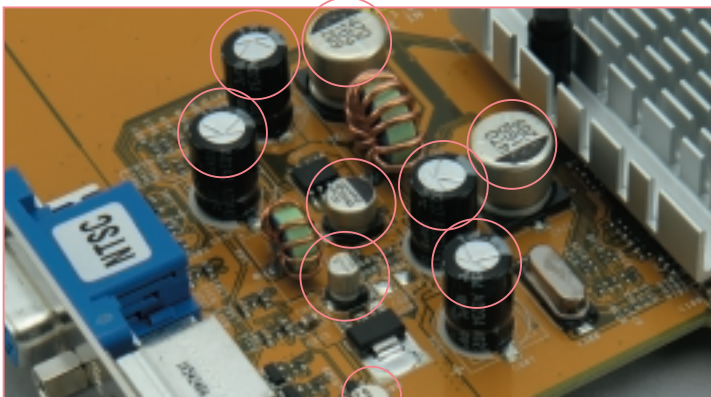
## キャパシタ/コンデンサは重要な要素

ビデオチップの性能を最大限に生かせるかどうかは、搭載しているキャパシタとコンデンサが重要なポイントとなります。ASUSのビデオカードには高品質の高電圧キャパシタを多数搭載し、安定した電力供給による画

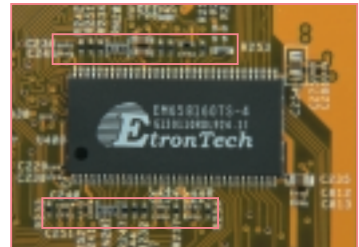
質の向上と、長い製品寿命を実現しています。また、ビデオメモリ周辺にもキャパシタと抵抗を豊富に配置することで、伝送信号へのノイズを防いで信号の質を高め、さらに安定した画像出力を行えるようにしています。



●高電圧タイプで安定した電力供給 キャパシタ数が多いだけでなく、それぞれのキャパシタには16Vもの高電圧タイプを採用しています。安定した電力供給による高い信頼性を実現しています



●高品質コンデンサを搭載 ビデオカード製品の中でもトップクラスのコンデンサを合計9個搭載。負荷の高い処理を行うさいにも安定した電圧供給が行えます。電力不足による処理速度の低下もなく、常に最大限のパフォーマンスを提供し続けます



●ビデオメモリ周りにキャパシタを配置 安定したパフォーマンスのために、ビデオメモリの周辺にはキャパシタを多数配置しました。さらに抵抗を搭載して伝送信号の品質を向上させています



### SCB-2408-D

CD-R24倍速 CD-RW12倍速 USB 2.0 IEEE 1394

●近日発売予定

#### USB2.0とIEEE 1394 両対応のスリムコンボ

USB 2.0とIEEE 1394 デュアルインターフェイス外付けドライブ「SCB-2408-D」は、スタイリッシュな薄型デザインと高速データ転送が特徴のコンボドライブ「Slimix」シリーズの最新製品です。重さ250g、厚さ16mmというCDケースとほぼ同じサイズというコンパクトさは、究極のポータブルドライブといえます。

バッファアンダーランエラー防止機能「FlextraLink」、書き込み速度自動調節機能「Flextraspeed」などのテクノロジーを搭載し、より安定した操作感を提供しています。CD-R 最大24倍速、CD-RW 最大12倍速での記録を実現し、CD-ROM 最大24倍速、DVD-ROM 最大8倍速の読み出しが可能です。



最大記録速度	24倍(CD-R)、12倍(CD-RW)、24倍(CD、DAE)、8倍(DVD)
データ転送方式	P-CAV(書き込み)、CLV(書き換え)、CAV(読み出し)
データバッファ	2MB
ランダムアクセス速度	CD:100ms、DVD:110ms
インターフェース	USB 2.0、IEEE 1394

### SCB-1608-D

CD-R16倍速 CD-RW10倍速 USB 2.0 IEEE 1394

●価格：2万3000円前後



最大記録速度	16倍(CD-R)、10倍(CD-RW)、24倍(CD、DAE)、8倍(DVD)
データ転送方式	P-CAV(書き込み)、CLV(書き換え)、CAV(読み出し)
データバッファ	2MB
ランダムアクセス速度	CD:100ms、DVD:110ms
インターフェース	USB 2.0、IEEE 1394

#### コンパクトな万能外付けドライブ

「SCB-1608-D」は、スタイリッシュな薄型デザインと高速データ転送が特徴のコンボドライブです。世界初のUSB 2.0とIEEE 1394デュアルインターフェイス外付けドライブで、マシンに合わせて柔軟な接続方式を選択できます。CD-R 最大16倍速、CD-RW最大10倍速の記録ができ、読み出し速度はCD-ROMが24倍速、DVD-ROMは8倍速です。バッファアンダーランエラー防止機能「FlextraLink」や書き込み速度自動調節機能「Flextraspeed」を搭載し、メディア書き込み時の失敗を減らします。本体上部に「再生/早送り」、「取り出し/停止」ボタンを装備しているので、携帯CDプレイヤーとしての利用も可能です。

# CRW-5224A-U

CD-R52倍速 CD-RW24倍速 USB 2.0

●実勢価格:1万4000円前後

## USB 2.0対応の外付けCD-R/RWドライブ

「CRW-5224A-U」は、世界最速の外付けCD-R/RWドライブです。USB 2.0の高速インターフェースで最大52倍速のCD-R書き込み、最大24倍速のCD-RW書き換え、最大52倍速のCD-ROM読み出しが可能です。また「Mt. Rainier」規格にも対応し、フォーマット作業による待ち時間を減らすことで、データ記録効率が飛躍的に向上します。

記録型ドライブに必須のバッファアンダーランエラー防止機能「FlextraLink」、書き込み速度自動調節機能「FlextraSpeed」はもちろん装備し、サスペンションによる振動制御装置「DDSS II」を搭載することで、モーターの回転音や本体の振動音を抑え、駆動時の静音性を高めています。



最大記録速度	52倍(CD-R)、24倍(CD-RW)、52倍(CD、DAE)
データ転送方式	CAV(書き込み)、P-CAV(書き換え)、CAV(読み出し)
データバッファ	2MB
ランダムアクセス速度	100ms
インターフェース	USB 2.0

# CRW-5224A

CD-R52倍速 CD-RW24倍速 ATAPI内蔵型

●価格:9000円前後



最大記録速度	52倍(CD-R)、24倍(CD-RW)、52倍(CD、DAE)
データ転送方式	CAV&P-CAV(書き込み)、P-CAV&CLV(書き換え)、CAV(読み込み)
データバッファ	2MB
ランダムアクセス速度	100ms
インターフェース	ATAPI/E-IDE

## 世界最速の52倍速CD-R/RWドライブ

「CRW-5224A」は、トップレベルの技術と汎用性を詰め込んだ高性能光学ドライブです。CAV(Constant Angular Velocity)とP-CAV(Partial Constant Angular Velocity)の両方式を採用することにより、ドライブのパフォーマンスが格段に向上しています。CD-R書き込み最大52倍速、CD-RW書き換え最大24倍速の世界最高水準のスピードを実現。オーディオCDの読み出しも最大52倍速で、高速な記録速度と安定した品質を両立させました。

さらに「FlextraLink」、「FlextraSpeed」、「DDSS II」のほか、メディアの回転数自動制御機能も搭載。ユーザビリティと静音性にも配慮した設計となっています。

# DRW0402-P

DVD-R4倍速 DVD-RW2倍速 CD-R16倍速 CD-RW8倍速 ATAPI内蔵型

●近日発売予定

## 4倍速書き込み対応のDVD-RWドライブ

DVDのスタンダード形式とされるDVD-R/RW形式を採用した「DRW-0402P」は、DVD-R/RWとCD-R/RW対応のマルチドライブです。HDDを大量消費するデジタル最高画質でのDVD-Videoのバックアップ作成や長時間の動画再生などに必要な機能をすべて備えたDRW-0402Pは、用途を問わず高いパフォーマンスを発揮します。オンザフライ時のスムーズな操作感は、ヘビーユーザーも納得できるものでしょう。

バッファアンダーランエラー防止機能を搭載し、縦置き/横置きなど設置方向を問いません。また、排熱効率の高い筐体を採用して、システムとドライブのパフォーマンスを最大限まで引き出します。



最大記録速度	4倍(DVD-R)、2倍(DVD-RW)、12倍(DVD)、16倍(CD-R)、8倍(CD-RW)、32倍(CD)
データ転送方式	CLV(書き込み/書き換え)、CAV(読み込み)
データバッファ	2MB
ランダムアクセス速度	CD: 130ms, DVD: 140ms
インターフェース	ATAPI/E-IDE



# DVD-E616

DVD-ROM16倍速 CD-ROM48倍速 ATAPI内蔵型

●実勢価格: 8000円前後

## 最高のマルチメディア体験をお届けします

「DVD-E616」は、高性能の再生品質と高速データ転送速度で最先端のマルチメディアドライブを満喫できるDVD-ROMドライブです。ASUS最新のテクノロジーを搭載し、高い静音性能と安定したシステム、さらに驚きのパフォーマンスでマルチメディア環境をより一層充実したものにします。



# CD-S520

CD-ROM52倍速 ATAPI内蔵型

●実勢価格: 4800円前後

## 予想を超えるパフォーマンスを発揮

「CD-S520」は、抜群の正確さと安定性を誇るデータ読み取り品質を兼ね備えたCD-ROMドライブです。ドライブ回転中の振動と共振を最小限に抑える「DDSS II」テクノロジーを搭載し、静音性の高いドライブに仕上がっています。高性能と安定性を求めるユーザーにお勧めです。



## S1N

Pentium M Intel 855GM HDD 20~80GB 13.3インチ液晶 無線LAN

- 問い合わせ先:株式会社フェイス, 株式会社エムシージェイ, アロシステム株式会社
- 予想価格:22万円前後

### さらに軽く, さらにパワフルに

「S1N」は, 重量わずか1.8kg, 厚さ22mmのウルトラスリムボディでカバンの中ですっきりと収まるデザインです。長時間の作業でも苦にならないフルサイズキーボード, やわらかいパームレストなど人間工学に基づいたデザインを採用しています。

ASUS独自の省電力技術「Power4Gear」とCentrinoプラットフォーム, インテルSpeedStepテクノロジーが融合して, パワフルでより長時間のバッテリー駆動時間を実現します。内蔵ワイヤレスLAN搭載でどこでもネットワークに接続可能です。

知的かつスタイリッシュなデザインとパワフルなパフォーマンスが, スマートなモバイルライフを演出します。



対応CPU	Pentium M/1.30~1.60GHz
液晶サイズ(最大解像度)	13.3インチTFT液晶(1024×768ドット)
搭載メモリ(最大容量)	128MB(640MB)
グラフィックス機能	Intel 855GM内蔵グラフィックス
サイズ/重量	296×240×21~22mm(幅×奥行き×高さ)/1.9kg
バッテリー駆動時間	約5.5時間



## M2N

Pentium M Intel 855GM HDD 20~60GB 14.1インチ液晶 無線LAN

- 問い合わせ先:株式会社フェイス, 株式会社エムシージェイ, アロシステム株式会社
- 予想価格:24万円前後

### 究極のモバイルパワー

「M2N」はモバイルを一層進化させたIntel Centrinoテクノロジー搭載の2スピンドルノートPCです。モジュールベイを付け替えることにより, CD-ROM, DVD-ROM, CD-R/RWドライブやコンボドライブ, FDDやHDDなど, システム構成を容易に変更できます。IEEE 1394とUSB 2.0のデュアルインタフェース搭載で, 外付けデバイスから高速データ転送が可能です。

もちろんLANやPCカードスロットといったスタンダードな機能もしっかりサポート。内蔵モデムとLANポート, IEEE 802.11b規格対応のワイヤレスLANまで標準搭載し, 高いネットワークとの親和性を提供します。

対応CPU	Pentium M/1.30~1.60GHz
液晶サイズ(最大解像度)	14.1インチTFT液晶(1024×768ドット)
搭載メモリ(最大容量)	256MB(768MB)
グラフィックス機能	Intel 855GM内蔵グラフィックス
サイズ/重量	306×246~253×36~37mm(幅×奥行き×高さ)/2.2kg
バッテリー駆動時間	約4.5時間

### WL-100G

IEEE 801.11g IEEE 801.11b 54Mbps 128ビットWEP

●近日発売予定

#### IEEE 802.11g/b 対応無線 LAN カード

「WL-100G」は、54Mbpsの高速データ転送が可能なIEEE 802.11g規格と、一般的に普及している11Mbpsの帯域幅のIEEE 802.11bの両規格に対応した無線LANカードです。Windows XPの標準ドライバで動作するため、ドライバのインストールは不要です。アクセスポイントの対応規格を検出して自動的に切り替えるため、自宅では高速なIEEE 802.11g、モバイル時には汎用性の高いIEEE 802.11bにシームレスに対応できます。



通信方式	IEEE 802.11g/b
WEP	64/128ビットWEP
転送レート	802.11g(6.9/12/18/24/36/48/54Mbps) 802.11b(1, 2, 5.5, 11Mbps)
サイズ/重量	54×115×6.3mm(幅×奥行き×高さ)/45g



### WL-300G

IEEE 801.11g IEEE 801.11b 54Mbps 128ビットWEP

●近日発売予定

#### IEEE 802.11g/b 対応アクセスポイント

「WL-300G」は、ADSL/ケーブルモデムに接続するか、100BASE-TXハブに接続するだけで利用できるアクセスポイントです。ケーブル配線の必要がないので、PCを置く場所を問いません。128/64ビットWEPによるデータ暗号化通信と、MACアドレス指定によるアクセスコントロール機能で不正アクセスを防ぎます。IEEE 802.11bに完全対応し、IEEE 802.11gもファームウェアのアップグレードによる完全サポートが可能です。

通信方式	IEEE 802.11g/b
WEP	64/128ビットWEP
転送レート	802.11g(6.9/12/18/24/36/48/54Mbps) 802.11b(1, 2, 5.5, 11Mbps)
サイズ/重量	40×138×150mm(奥行き×幅×高さ)/40.5g

### WL-500G

IEEE 801.11g IEEE 801.11b 54Mbps 128ビットWEP

●近日発売予定

#### IEEE 802.11g 対応のルーター+アクセスポイント

「WL-500G」は、IEEE 802.11b/IEEE 802.11gに対応したルーター機能付き無線LANアクセスポイントです。セットアップはADSL/ケーブルモデムにクロスケーブルでつなぐだけ。内蔵4ポートスイッチングハブでスムーズなワイヤレスLAN環境が作れます。IPシェアリング(NAT)、PPPoE、DHCPサーバー、プロキシ、DDNS機能を搭載。高品質かつ多機能なネットワークライフを楽しめます。



通信方式	IEEE 802.11g/b
WEP	40/128ビットWEP
転送レート	802.11g(6.9/12/18/24/36/48/54Mbps) 802.11b(1, 2, 5.5, 11Mbps)
サイズ/重量	180×205×36mm(奥行き×幅×高さ)/60g

# WL-200

IEEE 801.11a IEEE 801.11g IEEE 801.11b 54Mbps WEP +AES Security

●近日発売予定

## IEEE 802.11a/g/b対応の無線 LAN カード

「WL-200」は、IEEE 802.11a/g/bすべての規格に対応した無線LANカードです。

通常モードではアクセスポイントの対応規格を検出して、IEEE 802.11gとIEEE 802.11a、IEEE 802.11bの3規格を自動的に切り替えます。さらにターボモードでは最大108Mbpsでのデータ転送が可能です。また、152ビットAESと152/128/64ビットWEPの高度暗号化データ通信で、不正アクセスや通信データ傍受による情報漏洩を防ぎます。



通信方式	IEEE 802.11 a/g/b
セキュリティ	152ビットAES、64/128/152ビットWEP
転送レート	802.11a(6.9/12/24/36/48/54Mbps) 802.11g(6.9/12/18/24/36/48/54Mbps) 802.11b(1、2、5.5、11Mbps)
サイズ/重量	180×205×3.6mm(奥行き×幅×高さ)/60g



通信方式	IEEE 802.11g/a
セキュリティ	152ビットAES、64/128/152ビットWEP
転送レート	802.11g(6.9/12/18/24/36/48/54Mbps)、 802.11a(6.9/12/24/36/48/54Mbps)、802.11b(1、2、5.5、11Mbps)
サイズ/重量	175×205×34mm(奥行き×幅×高さ)/52.5g

# WL-600

IEEE 801.11a IEEE 801.11g IEEE 801.11b 54Mbps WEP +AES Security

●近日発売予定

## SOHO 向けワイヤレス LAN ゲートウェイ

「WL-600」は、IEEE 802.11a/g/bで通信を行える無線LANアクセスポイントです。最大データ転送率は有線LANを上回る108Mbpsを実現。Wi-Fi認証を取得済みで、IEEE 802.11b対応機器との完全な互換性を保証します。さらにローミング機能もサポートしているため、Wi-Fi認証取得アクセスポイントによるネットワークアクセス可能エリアの拡大も可能。WEP、AES対応で信頼性の高いネットワーク構築を行えます。

# WL-100

IEEE 801.11b 11Mbps 128ビットWEP

●価格：7000円前後

## 2アンテナ搭載の高感度無線 LAN カード

「WL-100」は、11Mbpsでのデータ通信が可能な無線LANカードです。Wi-Fi認証取得によりIEEE 802.11b機器との完全な互換性を保証しています。指向性のある内部アンテナと可動式で無指向性の外部アンテナの二つを搭載し、安定した通信ができます。自動アクセスポイント切り替え機能でシームレスなローミングをサポート。一定期間ごとに暗号キーを切り替える64/128ビットWEPでセキュアな通信が行えます。



通信方式	IEEE 802.11b
WEP	64/128ビットWEP
転送レート	802.11b(1、2、5.5、11Mbps)
サイズ/重量	115×54×6.3mm(奥行き×幅×高さ)/50g



## A600

PXA 250 64MB RAM 32MBフラッシュROM

●近日発売予定

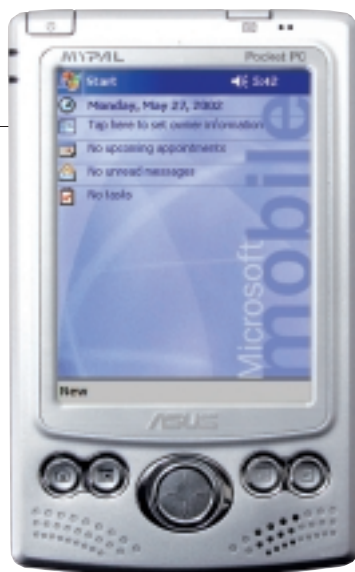
### すべてはここから始まるモバイルライフ

マイクロソフト Pocket PC 2002搭載の「A600」は、Pocket Outlook, Pocket Word, Pocket Excelといったオフィスアプリケーションを使って、外出中でもまるでオフィスにいるかのように作業を行える、パーフェクトなパートナーです。

標準装備のSDカードスロットを利用したりCFカードアダプタを装着すれば、有線/無線ネットワークに接続も可能です。ネットサーフィン、オンラインショッピング、メール送受信を好きなどきに楽しめます。さらに豊富なバリエーションを取りそろえたバンドルソフトで、ゲームをプレイしたりMP3プレイヤーとして音楽を楽しむといった使いかたも可能です。



プロセッサ	Intel 400MHz PXA250
ソフトウェア	Microsoft PocketPC 2002
メモリ	64MB RAM, 32MBフラッシュROM
バッテリー持続時間	12時間
サイズ/重量	75×128×125mm(幅×奥行き×高さ)



## A620

PXA 255 64MB RAM 32MBフラッシュROM

●近日発売予定

### CFスロット搭載のPocket PC

世界で最も小さくて軽いCF(コンパクトフラッシュ) Type II スロット搭載のPocket PCがASUSから誕生しました。高さ125×幅76.6×薄さ13.3mm、重量わずか141gのコンパクトボディで、データ交換やネットワークアクセスがさらに手軽に行えます。

「A620」は最新のパワフルなCPU、インテル PXA 255/400MHzを搭載し、最大解像度320×240ピクセルの3.5インチTFT液晶を採用しています。OSにはマイクロソフト Pocket PC2002を採用して、Pocket WordやPocket Outlookといったオフィスアプリケーションとの高い親和性を提供します。さらに大容量バッテリーを採用して、最大15時間の連続駆動を実現しました。

プロセッサ	Intel 400MHz PXA250
ソフトウェア	Microsoft PocketPC 2002
メモリ	64MB RAM, 32MBフラッシュROM
バッテリー持続時間	15時間
サイズ/重量	76.6×13.3×125mm(幅×奥行き×高さ)

# ASUSの極秘情報入手できる!?

マザーボードはもちろん、ビデオカードなども製造しているASUSでは、日本で発売されていない面白い製品があります。例えば、V9280シリーズはNVIDIAのGeForce4 Ti 4200-8Xを搭載したビデオカードですが、日本市場では「V9280/TD」と「V9280S/TVD」しか発売していません。実は、台湾では「V9280 Video Suite」というハイエンドモデルを発売しています。なんで私がこの製品を紹介したいかという、下の写真を見てください。ヒートシンクにビックリしたでしょう! 「ASUS」となっています!! (笑)

ちなみにASUSの読みかたですが、アサス、エイサス、アスス、アスースなどいろいろ呼ばれていますね(笑)。なじみやすい名前前で呼んでい

ただいて大丈夫だと所長のアンドリュウ(p.1参照)も言っていましたので、基本的にはどれでも大丈夫です。でも、日本で法人登録しているのはアスースです。一応覚えておいてくださいね。

ASUSは、Pegasus(ペガサス)の後ろの4文字を取ってきたものです。ペガサスのように空を高く飛ぶという意味が込められています。ASUSはプロフェッショナル向けマザーボードの開発を専門として1989年に台湾で創業し、1992年に世界初のIntel386対応マザーボード、1993年には世界初のIntel486対応マザーボードを開発しました。1995年には、世界最初のデュアルPentium Pro対応マザーボードを開発し、最初に発表したドイツのCeBITでは、世界の

PC産業メーカーから大きな注目を受けました。

現在、業界トップシェアを誇るASUSでは、2003年第1四半期も多くの製品を発表/発売してきました。ユーザーの皆様のたくさんのご支持にとっても感謝しています。第2四半期には、また皆様がアッと驚く新製品を出す予定です。実はロードマップと製品写真を見た時点で、「これが欲しい〜」と私が決めた製品が二つあります。まだNDA(Non-Disclosure Agreement)なので、お話しできないのが非常に残念です。次号では、私が欲しい〜という製品について詳しく紹介したいと思いますので、楽しみに待っていてください。よろしくお願います。

アスーステック  
東京事務所から

こんにちは! ASUSTeK Computer(華碩電腦)東京事務所、広報担当のシンシアです。アスースワールド日本語版創刊号を読んでくださった皆様、ありがとうございます。ここでは私が皆様に日本市場で知られていない(?)ASUSのエピソードをこっそりお教えしましょう。

## アスーステックから 感謝の気持ちを込めてプレゼント

弊社営業担当のY.Tによれば、V9280 Video Suiteが日本で発売しない理由は「モデルを絞るため」とのことです(なんだかよく分かりませんね)。でも、なんと太っ腹の営業担当Y.Tが、日本では入手できないV9280 Video Suiteを提供してくれました! ASUS製品を使った感想、ASUSへの要望、アスースワールド日本語版創刊号の感想について熱く語っていただいた方の中から、抽選で1名の方にプレゼントいたします。締め切りは6月30日です。左下の応募条件をよく読んで、ふるって応募してくださいね。

### ■応募方法

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤職業 ⑥メールアドレス ⑦アスースワールド日本語版創刊号の感想、ASUSへの要望、(ASUS製品を使用したことのある方は)ASUS製品を使った感想を記入して、[asuswj@msn.com](mailto:asuswj@msn.com)まで電子メールでお送りください。



銀色の文字でASUSです。気が付きました?



執筆・・・・・・・・・・ 高橋敏也, 鈴木雅暢, 翠川まお, 石井英男  
ASUSTeK Computer 東京事務所

本文デザイン/DTP・・・ポンプワークショップ

表紙デザイン・・・ポンプワークショップ

■購入前の商品に関するお問い合わせは以下までお願いします。

株式会社 ユニティコーポレーション

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-5-4 偕楽ビル5F

TEL 03-5812-6121(代表) FAX 03-5812-6521(代表)

<http://www.unifycorp.co.jp/>

ユーエーシー株式会社

〒140-0001 東京都品川区北品川3-6-14 UACプラザビル

情報機器営業部 TEL 03-5783-0052 FAX 03-5783-0058

<http://www.uac.co.jp/>

<http://www.asus.co.jp/>

本書の一部あるいは全部について、ASUSTeK Computerから文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断複写、複製、転載することを禁じます。

Printed in Japan

Copyright ©2003 ASUSTeK Computer Inc. All rights reserved.

■掲載されている商品名・会社名などは、一般の商標並びに登録商標です。  
■掲載価格は目安で、その価格での販売を保证するものではありません。なお、消費税は含まれていません。■掲載した商品の仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。■このカタログの掲載内容は、2003年4月現在のものです。■カタログ有効期限/2003年7月末日まで。